

か
み
の
か
わ
・

流

上三川町町勢要覧2016

町村合併60周年

上三川町町勢要覧2016

か
み
の
か
わ
・
流

発行 上三川町

編集 企画課

〒329-0696

栃木県河内郡上三川町しらさき一丁目一番地

電話 0285-56911

FAX 0285-566868

発行日 平成28年3月

制作 株式会社文化工房



【第1章】
上三川の源流をめぐる
〜かみのかわ3つの流れ〜

- 2 ◎自然・環境編
- 2 水資源に恵まれた肥沃な大地
- 4 大自然に抱かれた憩いの場
- 6 豊かな食の宝庫
- ◎歴史・文化編
- 8 継承される伝統文化
- 10 歴史に残る貴重な遺跡
- 12 城下町の趣が残る町並み
- ◎まち・人編
- 14 快適な交通アクセス
- 16 世界基準の活気ある産業
- 18 自慢のグルメがめじろおし

【第2章】
上三川・歴史年表
〜悠久の歴史の流れ〜

- 22 古代〜室町時代
- 24 安土桃山〜昭和初期
- 26 戦後〜町村合併まで
- 28 町村合併後〜現在

【第3章】
上三川・歳時記
〜華やかな季節の流れ〜

- 30 春・夏・秋・冬

【第4章】
上三川・世代交流
〜受け継がれる人の流れ〜

- 34 子どもたちが夢見るかみのかわ
- 36 大人たちがつくるかみのかわ

【第5章】
第7次総合計画
〜明るい未来への流れ〜

- 42 「基本目標①」「安心安全・定住」のまちづくり
- 45 「基本目標②」「子ども・健康・福祉」のまちづくり
- 48 「基本目標③」「産業・しごと・活力」のまちづくり
- 51 「基本目標④」「交通・交流・連携」のまちづくり
- 52 「基本目標⑤」「人・文化・スポーツ」のまちづくり
- 53 「基本目標⑥」「自然・環境」のまちづくり
- 53 「基本目標⑦」「コミュニティ・地域力」のまちづくり
- 53 「基本目標⑧」「協働・健全財政」のまちづくり

54 議会・行政

56 上三川MAP

【第6章】

上三川・流景
〜彩りあふれる地域の流れ〜

- 58 本郷小学校区
- 60 本郷北小学校区
- 62 上三川小学校区
- 64 坂上小学校区
- 66 北小学校区
- 68 明治小学校区
- 70 明治南小学校区
- 72 町の象徴

ごあいさつ



町長
上三川町長
星野光利
Hoshino Mitsutoshi

昭和30年4月29日に、当時の上三川町、本郷村、明治村が合併して現在のの上三川町が誕生しました。

合併当初は農業が主産業だった人口1万9千人のまちも、昭和40年代の大手自動車メーカーの進出を契機として工業化、都市化が進み、国などにより新4号国道や北関東自動車道といった道路網整備が進められたことと相まって、さらなる企業立地の増加や大型商業施設の開業などがされ、「農商工のパランスの取れた住みよいまち」として、現在、人口3万1千人を数えるまでになりました。

この間、町を取り巻く社会情勢は、人口減少社会の到来や少子高齢社会の進展など、大きく様変わりしてきております。

こうした中、新たな課題や多様なニーズに対応するため、まちづくりの新たな指針として平成28年度を初年度とした「上三川町第7次総合計画」を策定しました。「共に創る

次代に輝く 安心・活力のまち 上三川」を将来像とするこの計画の実現に向け、まちづくりを進めてまいります。

この町勢要覧は、合併60周年を記念して、上三川町が進める施策や、歴史、人々の姿などを紹介しております。上三川町の再発見につながれば幸いです。

町の魅力を映像で配信しています。



町の紹介やイベントの動画をパソコンやスマートフォン、タブレットなどで見ることができます。

← アクセスはこちらから
(上三川町ホームページ内)

URL: http://www.town.kaminokawa.tochigi.jp/f_kikaku/douga/douga.htm



上三川の源

流をめぐる

くかみのかわ3つの流れく

暮らしやすく、農産業も活発で福祉も充実した元気なまち上三川町。その魅力を、自然・環境編、歴史・文化編、まち・人編の3つの視点から紹介します。



水資源に恵まれた肥沃な大地

自然 環境

上三川町には、3本の大きな川が流れています。これらの川のおかげで、肥沃な大地が形成され、実り豊かな田園地帯となりました。かつて幾多の災害を引き起こした川も、次々に改修され、人々に豊かな憩いの空間を提供しています。もっとも大きな川は、町の東側、真岡市との境にある鬼怒川です。日光の山々を源とするこの川は、知る人ぞ知るアユ釣りの名所。毎年十数万尾が放流され、6月には銀色に輝く若アユが清流を遡上する光景が見られます。

その西隣に流れるのは江川。江川沿いは水田地帯となっており、豊かに実る米どころとして、その名を知られています。そして、町の西側を流れるのは田川です。国道352号の明治橋下流左岸は桜堤として地域の人々に親しまれ、春には美しい姿を見せてくれます。また、対岸には、田川ふれあい公園があり、公園内のパークゴルフ場には、県内外の人たちが訪れ、プレーを楽しんでいます。



右/堤防に植樹された桜の並木が、春には見事な花を見せてくれます。左/氾濫を繰り返した川は、また、大地に肥沃さをもたらすものでもありました。江川沿いには、コシヒカリの実る田んぼが広がります。

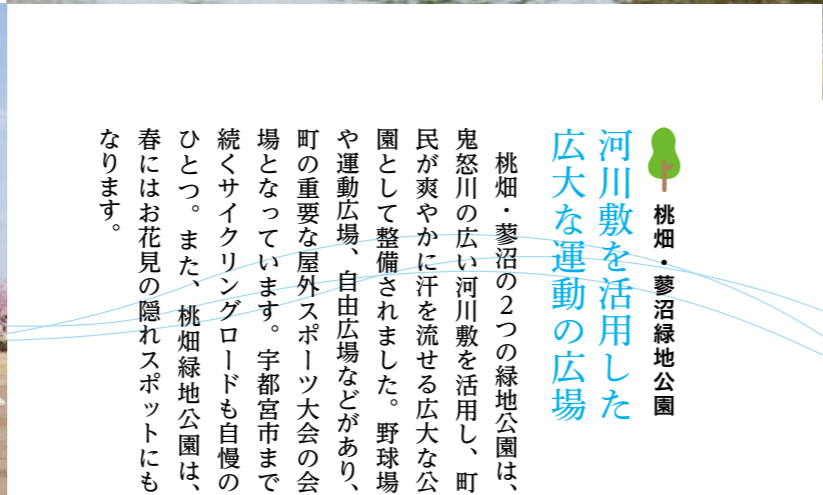
磯川緑地公園 ホタルの観察を 楽しめる

磯川流域の多様な動植物を保護し、人々が気軽にふれあえる場として親しまれている磯川緑地公園。遊歩道には木道が整備され、散策にぴったり。子ども連れでも無理なく自然観察が楽しめます。園内のヒゲ沼では、町内の環境保全団体や地元の中学生によってホタルの放流が行われ、5月末から6月中旬まで、幻想的にまたたく光を見ることができます。



夢沼親水公園 川の自然に親しむ 楽しい親水空間

鬼怒川沿いにつくられた夢沼親水公園には、多様で豊かな河川敷の自然が復元され、身近に観察や体験をすることができます。多目的ゾーン・鑑賞ゾーン・親水ゾーン・保全観察ゾーンの4つからなり、どの世代の人も楽しみながら学べる環境です。鑑賞ゾーンには湿生植物のきれいな花々が見られる池があり、親水ゾーンでは浅い水の流れがあり子どもたちが安全に水遊びできます。



桃畑・夢沼緑地公園 河川敷を活用した 広大な運動の広場

桃畑・夢沼の2つの緑地公園は、鬼怒川の広い河川敷を活用し、町民が爽やかに汗を流せる広大な公園として整備されました。野球場や運動広場、自由広場などがあり、町の重要な屋外スポーツ大会の会場となっています。宇都宮市まで続くサイクリングロードも自慢のひとつ。また、桃畑緑地公園は、春にはお花見の隠れスポットにもなります。



川の変遷

川に寄り添う人の暮らし

川とともに暮らしが営まれてきた上三川町。いつもは穏やかな流れが時として奔流となることに苦しみつつも、それがもたらす肥沃な土壌の恩恵にもあずかってきました。そして今、川は人々の心を潤すアメニティ空間として、その価値を高めています。



鬼怒川の渡し船の様子。昭和39(1964)年に夢沼の渡し場が廃止されるまで、東西唯一の交通手段として利用されていました。



今では、広大な河川敷の空間を活かした、町民の憩いの場として整備されています。

大自然に抱かれた憩いの場

上三川町には、四季折々の自然や歴史の面影、スポーツを楽しめる、バラエティに富んだ公園施設がそろっています。中世に築かれた上三川城の跡地を整備した上三川城址公園は、お堀や土塁に遠い歴史を感じる、桜の名所として人気を誇ります。町の南にある富士山公園には、テニスコートや野球場などの本格的なスポーツ施設が充実。活気に満ちた公園です。

町の中心部に位置するしらさぎ公園は、江川と田川の中間にあり小高い丘を有しています。その頂上からは平坦な町を見渡すことができます。そして、水流豊かな上三川らしい公園といえば、鬼怒川河川敷の蓼沼親水公園や、田川流域の用水路を整備した水環境神主公園があげられます。蓼沼親水公園は、各種ゾーンが整備され、季節感を演出する植栽が施されており、特にジャブジャブ池では、子どもたちが楽しそうに水にふれあっています。水環境神主公園は、ピオトープを整備し、水辺の豊かな生態系を気軽に楽しめます。どの公園も、上三川町に住む人々の暮らしを豊かに彩っています。



水環境神主公園

県営水環境整備事業により、田川流域の大山用水路と台下排水路が整備され、農業用水路としての機能回復が図られました。同時に周辺に残る自然の生態系を重視した公園が生まれました。3つのゾーンに別れた親水空間にはあずまやが点在し、池、橋などもあって景色がよく、シダレザクラ、ハナミズキ、ツツジ、ハマナス、フジ、アジサイなど、場所ごとに四季折々の花々が楽しめます。



水路の上流部にある「わんぱくゾーン」は、山遊びと水遊びの両方を楽しめる空間です。生態系を大切にした公園には、たくさんの生き物が息づき、身近に自然を感じることができます。

田川ふれあい公園

田川ふれあい公園は、世代を問わず気軽に楽しめる『パークゴルフ』の本格的なコースが2コース備わります。パーベキュー広場や川べり広場など、のどかな風景の中で家族や友人同士がゆったりとくつろいだり楽しんだりする施設がそろっています。ゆったりとした田川の景色を眺めながら、ホッとした気持ちになれる公園です。



富士山公園

富士山公園には、全天候型テニスコートが4面、軟式野球場が2面、陸上トラックがあり、生涯スポーツの活動拠点として利用されています。また、日本庭園や、小さい子どもがよろこぶような遊具も各種そろっています。園内の一角には子ども専用プールも併設され、夏場の水遊びを楽しむことができます。子どもから大人まで、体を動かすよろこびを感じられる公園です。



しらさぎ公園

しらさぎ公園は白鷺神社の北側にある公園です。日時計が設置された丘は芝生広場で、頂上からは園内が一望できます。公園の中央部には幼児も安全に遊ぶことができる水遊びの場があり、夏になると親子で楽しむ姿が見られます。園内各所に遊歩道やベンチがあり、春にはお花見客も訪れます。



上三川城址公園

中世に築かれた上三川城の跡地を整備し、堀と土塁に囲まれた公園にしました。土塁の上にはソメイヨシノ、エドヒガンザクラ、シダレザクラ、ボタンザクラなど、多数の桜が植えられており、開花の時期には多くのお花見客が訪れます。ツツジの季節に見られる、朱色と新緑の鮮やかな色彩も見事。ベンチやあずまや、中央の芝生にお弁当を広げれば、気軽にピクニック気分を味わえます。



イチゴ

上三川町で栽培されている代表的な品種は『とちおとめ』。平成24(2012)年からは、とちおとめより実が大きくて食味の良い新品種『スカイベリー』も生産されています。



グリーンアスパラガス

グリーンアスパラガスは、ビニールハウスによる半促成栽培が行われています。県内で上三川町がいち早く生産を始め、品質は国内トップクラスに。町内で生産された、特に品質の良いものは、ブランド野菜として『アスパラリン』と名付けられます。



ニラ

ニラは冬季の労力活用と、安定した収入確保を目的として生産されるようになりました。その後、水田の転作作物として生産が拡大し、現在は1年を通じて生産されています。



トマト

トマトは大型ハウスによる施設栽培が行われており、ほぼ1年を通じた出荷が可能になっています。町内では収穫できる期間を長くするために、高軒高のハウスによる栽培も行われています。

かんぴょう農家・海老原 悟さん、初代さん夫妻



自然 環境

豊かな食の宝庫

水の豊かな上三川町は、昔から農業が盛んに行われていました。名産のひとつ、かんぴょうは、県内有数の生産量を誇り、その花、ゆうがおは町の花となっています。4世紀後半頃日本に渡来したとされるかんぴょう。上三川町のあたりでは、1700年代に栽培が始まったとされ、栄養と繊維質が豊富なことから注目される健康食材です。

近年の上三川町では、首都圏に近いという利点を活かし、都市近郊型農業が盛んになっています。グリーンアスパラガスやイチゴなど、鮮度が品質に大きく影響する作物は、特に消費地までの運搬に時間がかからないという強みを活かして、多く出荷されています。また、ニラの一大産地でもあり、県内でもトップクラスの収穫量を誇ります。その他、キュウリやトマト、トウモロコシ、玉ねぎなど、どの家庭にも身近な野菜を送り出し、首都圏の台所を支えています。また、本町を中心に栃木県内の有機農産物に関わる農家や団体、企業、個人が集まり「かみのかわ有機農業推進協議会」が結成されました。有機農業を通じて、安全な食とよりよい環境づくりのために活動しています。



かんぴょう

かんぴょうは、夏季畑作の代表的な作物です。ゆうがおの実(ふくべ)を薄く、細長く裂いて天日乾燥したもので、本町の伝統的特産品です。

生産農家が増えつつあるスカイベリー栽培の難しさも収穫のよろこびにはかなわない

イチゴ農家・上野忠男さん

4年前からスカイベリーを生産している上野さん。いまだに育て方は試行錯誤の部分もあるという。「甘いイチゴを作るには寒暖の差が必要。でもスカイベリーは冷気に弱いので、冷たい風が直接当たらないようにハウスを工夫したり、気温や地温を常にチェックしたり。そのかわり病気に強いので農薬が必要なく、イチゴが光るぐらい艶やかなんですよ」

知名度の上昇ともなっていて生産農家も増えつつあるという。「日本一のイチゴの生産地、栃木県が17年もかけて生み出した品種ですから頑張りたいんです。形も色艶も味もとても良いので、さらに広めていくには今が正念場ですね。ただ、生産はやっぱり難しい。もう45年イチゴを作っていますが、毎年が1年生ですよ。その分、収穫のよろこびは格別です」



生産者インタビュー

栽培の工夫で品質を向上しながら、生産量でも日本一を目指します

ニラ農家・稲葉隆一さん

上三川町でニラの栽培が始まったのは35年ほど前から。減反政策で生産量が減った米に替わる作物として、ニラ栽培の推進が始まったのは、稲葉さんがまだ学生の頃だという。栃木県がニラの生産に適しているのは、冬季でも日照時間が長いことが理由のひとつにあげられる。

上三川町のニラ農家は、現在100戸ほど。品種の開発や栽培方法の工夫なども盛んに行われている。「私の畑では、近隣の畜産農家から分けってもらった牛ふんを堆肥として使っています。急いで出荷せず、味が濃くなるまでじっくりと育てています。栃木県はニラの栽培面積では日本トップですが、生産量では高知県が一番です。色の濃くて見た目もよいニラへと改良しながら、全国一の生産量を目指したいですね」と稲葉さんは話す。





雷電宮祭

雷電宮祭は、毎年4月15日に白鷺神社で行われます。雷電宮は、京都の賀茂別雷神社のご分霊で、建長元（1249）年に上三川城を築かれた際、上三川町の守護として宇都宮城内に祀られていた雷電宮を勧請したものと伝えられています。上三川では毎年雷電宮祭を行って除雷や除災の祈願をし、また、農耕守護や家内安全を願います。



歴史 文化 継承される伝統文化

暮らしの中で季節ごとの節目となり、伝統文化を感じさせてくれるのが、折々に行われる昔ながらのお祭りです。新年の初詣・初市に始まり、小正月には町内のあちこちで「どんと焼き」の火が上がり、木々の枝につけた「まゆ玉だんご」を「どんと焼き」の炎で焼いて食べることは、町内の人々にとって子どもの頃からの楽しみのひとつです。春には白鷺神社で雷電宮祭が行われます。お祭りの目玉は、なんとといっても「太々神楽」。12の神様に扮した保存会の人々が神楽殿で演じ、奉納される神話の世界に浸りながら、現代までのつながりに思いを馳せるのもいいものです。

8月には、愛宕神社で子どもたちによる「奉納相撲」が行われ、にぎやかな声が響き渡ります。そして、11月に開催される「かみのかわふる里祭り」では、さらびやかな「稚児行列」を楽しみに行っている人も、町内外に多いのではないのでしょうか。子どもをもつ親にとっても、稚児行列に参加することはひとつの節目を象徴する舞台であり、よい思い出づくりとなっています。



愛宕神社奉納相撲

古墳の頂に建立されている愛宕神社。その境内で、毎年8月に200年の歴史をもつ奉納相撲が開催されます。現在は子どもも相撲として奉納されています。相撲場で練り上げられる豆力士たちの名勝負に、神様も思わずほほ笑んでしまうことでしょう。



太々神楽

太々神楽は、神楽保存会の人たちにより日本神話に基づいて演じられ、神社のお祭りの時に神楽殿で奉納されます。約200年の伝統があり町の無形民俗文化財に指定されています。猿田彦命（さるたひこのみこと）の舞から須佐能命（すさのおのみこと）の舞まで12の演目があり、神話に登場するさまざまな神に扮して演じます。



かみのかわふる里祭り

毎年11月、上三川城址公園を会場として行われる楽しいお祭りです。イベントのほか、多数の模擬店が出てにぎわいます。また、白鷺神社から城址公園までの約600mを、烏帽子や冠など、さらびやかな平安装束をまとった町内の未就学児100人ほどが山車屋台を引き、おはよしの演奏とともに町を練り歩きます。



右/小正月前後に町内各地で行われる「どんと焼き」。正月の松飾りやしめなわ、書き初めなどを家々から持ち寄り、積み上げて燃やし、今年一年の無病息災を祈ります。
左/2〜3年乾燥させた「ふくべ（ゆうがおの実）」に、日光彫や鎌倉彫等の技法を取り入れ、独特な細工を施した「干瓢ふくべ一刀彫り」は、炭入れ、小物入れ、魔除け面などとして実用されてきました。

歴史に残る貴重な遺跡

上三川町には、多くの遺跡が残されています。6世紀頃には有力者の墓である古墳がたくさん作られ、町内のあちこちに残っています。

奈良時代を中心とした河内郡の役所跡である上神主・茂原官衙遺跡は、他の遺跡にはない特徴を持つ貴重な遺跡であることから、国指定史跡とされました。

鎌倉時代には、鬼怒川中流域一体を治めた宇都宮氏の一門である、横田氏と多功氏が、町域内にそれぞれ上三川城と多功城を築きました。上三川城は、今では公園として整備され、町民の憩いの場となっています。本丸の土塁や堀に当時の面影を見ることが出来ます。

この地を治めた武将たちの墓は、今泉家累代の墓、横田家累代の墓、多功家累代の墓として大切に守られ、長い年月を感じさせる風化した仏塔が並びます。遺跡を訪れ、いにしえの時代と、その時を生きた人々に思いを馳せれば、現代の上三川町も新鮮な角度から見ることが出来るかもしれません。

多功家累代の墓

見性寺には鎌倉時代から室町時代にかけて立てられた遺骨を収めるための五輪塔と、後に作り替えられた五輪塔が十数基並びます。慶長2（1597）年、宇都宮氏の改易によって多功氏はこの地を離れましたが、子孫たちにとって特別な場所であり続けました。昭和50（1975）年に町の指定文化財史跡になりました。



横田家累代の墓

上三川城主横田家累代の墓は、菩提寺である善応寺にあります。墓は宝篋印塔という仏塔で墓域に9基がたたずんでおり、鎌倉、南北朝時代の特徴を残しています。多功家累代の墓と同様、昭和50（1975）年に町の指定文化財史跡になりました。



今泉家累代の墓

横田家から交代して上三川城主となったのは今泉家でした。永正元（1504）年、今泉盛朝によって長泉寺が建立されます。その境内にある今泉家累代の墓は、今泉一家代々を供養する墓塔でした。室町時代の特徴を残す宝篋印塔と呼ばれるかたちで、慶長2（1597）年の落城も見届けました。



上三川城跡（上三川城址公園）

上三川城は建長元（1249）年に宇都宮氏の領域の南の要として築かれ、慶長2（1597）年に落城するまで約350年続きました。宇都宮と結城を結ぶ街道沿いで、戦略的に重要な場所に位置します。全国を股にかけ活躍した武将・横田頼業が初代城主となり、代々横田氏が城主となりました。しかし康暦2（1380）年の蒙原（もぼら）の戦いで城主の横田氏一族が負傷したため今泉氏に城主を交代。今は公園として整備されています。

多功城跡

多功城は宝治2（1248）年に宇都宮の南の要として、宇都宮氏一族の多功宗朝により築られました。兄の横田頼業が築いた上三川城とともに、宇都宮城の防衛に大きな役割を果たしました。慶長2（1597）年、宇都宮氏が改易され、豊臣秀吉が領地を没収。約350年の長い歴史が閉じられました。本丸跡の北側から西側にかけて土塁と堀の一部が今も残ります。



国指定史跡 上神主・茂原官衙遺跡

上三川町と宇都宮市の境に位置するこの遺跡は、出土した瓦に奈良時代頃の人名が刻まれていたことから寺院跡と考えられています。しかし宇都宮市と合同で行った発掘調査で役所（官衙）跡であることが判明。飛鳥時代後期から平安時代前期にかけて営まれていたものとされています。平成15（2003）年8月に国史跡に指定されました。





白鷺神社
 白鷺神社は、延暦2(783)年、疫病退散の祈願のために日本武尊を祀ったのが始まりと伝えられています。康暦2(1380)年に小山義政が上三川城を攻めた時、神社の森に群れ飛ぶ白鷺を敵の旗と見間違え後退したことから、白鷺明神と呼ばれるようになったとの逸話があります。神社西側の鳥居は、今は採掘禁止となっている日光石でつくられており、町指定の文化財です。4月と11月に神楽が行われます。

上郷神社

うっそうとした森に包まれたこの神社は、古くから近隣の信仰の対象となっています。今でも11月のお祭りには神楽が行われます。



上三川七福神の寺

七福神信仰は室町時代の末期頃に生まれ、七福神を参拝すると七つの災難が除かれ、七つの幸福が授かるといわれています。それぞれのお寺に用意されている色紙をいただきながら、七つのお寺を巡ります。車なら35分弱ですべてのお寺を巡れます。それぞれが比較的近くにあるので歩いても巡りやすく、徒歩での所要時間は3時間ほどです。

- 1 長泉寺 (弁財天)
- 2 善応寺 (大黒天)
- 3 普門寺 (福祿寿)
- 4 延命院 (布袋尊)
- 5 見性寺 (毘沙門天)
- 6 宝光院 (恵比寿)
- 7 西念寺 (寿老人)

歴史 文化 城下町の趣が残る町並み

縄文時代より前に人が住み着いたといわれる上三川町域には、鎌倉時代に相次いで2つの城が建てられて以後350年の長きにわたって城下町として繁栄しました。豊かな自然に恵まれた環境で、人々は活気ある町をつくり、経済や文化の拠点となっていたと考えられます。

上三川町の特徴として、白鷺神社や満願寺など、たくさんのお寺が旧跡があることが挙げられます。こうした寺社は、城下町として栄えていた中世に縁をたどれるものが少なくありません。歴代の城主によって建立されたお寺や、勧請された神社が多いのです。それらの歴史をたどることで、城の変遷に象徴される上三川の歴史を読み取ることができます。

城が衰退して以降も、これらの場所は、地域の人々にとって信仰の場・集いの場であり、また憩いの場でもあったことでしょう。高樹齢の大木も多く残り、地域のランドマークとして大切にされてきたことがわかります。

高麗神社

満願寺と地続きにある神社です。境内にあるアカガシは、樹齢270年の古木で、昭和47(1972)年に町指定の天然記念物となっています。鳥居を覆うように枝葉を伸ばし、茂っています。

満願寺



寺には木造阿彌陀如来坐像(県指定文化財)をはじめ、平安時代から鎌倉時代の多くの仏像があり、平安時代には、現在よりも大きな寺として繁栄していたと考えられています。楼門や薬師堂は江戸時代に建立されました。境内にあるカヤの木は、「とちぎの名木100選」にも選ばれ、樹齢500年といわれています。また、イチヨウの木も樹齢250年といわれる立派な木です。

満福寺

不動明王を本尊とし、建久年間(1190~99)に宇都宮頼綱が開創したと伝えられる古刹です。慶応4(1868)年、新撰組の土方歳三が宇都宮城を攻略する際、この寺の本堂を宿陣地としました。境内のほぼ中央にある、幹周り5mほどのイチヨウの木は、町指定の天然記念物となっています。樹齢は350年ともいわれ、秋にはたくさん銀杏が実ります。





JR石橋駅

上三川町民が使う鉄道の最寄り駅は、町の西側にある宇都宮線石橋駅（下野市）。明治18（1885）年に開業した駅で、東口ロータリーのすぐ東側が上三川町です。駅は朝夕、通勤・通学をする人たちが行き交います。



宇都宮上三川インターチェンジ



新4号国道

町の真ん中を南北に貫通する新4号国道は、首都圏から東北までを結ぶ主要道路で、田園工業都市・上三川の発展に大きく貢献しました。平成25（2013）年に栃木県内が全線6車線化されました。

まち 人 快適な交通アクセス

上三川町は、国道や高速道路などが交錯する、交差点のような場所です。昭和39（1964）年に日産自動車の誘致が決定して以来、県内屈指の工業総出荷額を誇る工業生産は、こうした交通の利便性に支えられてきました。

新4号国道は、首都圏から東北までを結ぶバイパスとして、昭和50（1975）年に一部が完成。しばらくは道の両側に田園風景が広がっていましたが、モーターゼーションの時代を受けて続々と店舗ができるようになります。景観も大きく変化していきます。平成15（2003）年に大規模ショッピングモールができると、幹線道路沿いにさまざまな大型商業施設が並ぶようになりました。東京ドーム2・4個分の敷地をもつ巨大ホームセンターもそのひとつです。

体系的な道路網の確立が進むと、ベッドタウンとして定住する人も増え、人口が増大しました。今も首都圏の重要な流通の基地として発展を続けています。

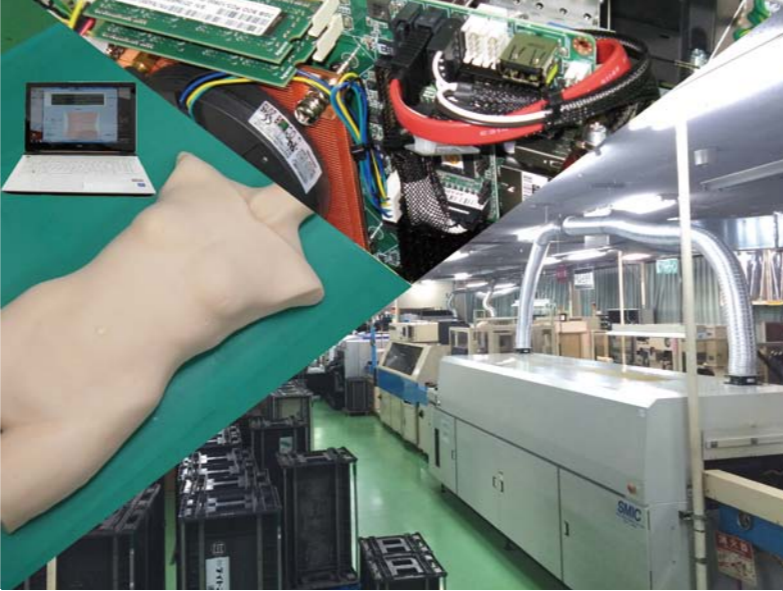
にぎわいのあるショッピングパーク

平成15（2003）年に、宇都宮上三川インターチェンジ付近に、百貨店を核とした大規模ショッピングモールがオープン。幹線道路沿いに大規模店舗や複合娯楽施設、飲食店など、郊外型店舗の出店が相次ぎました。





日産自動車栃木工場での車生産



エレクトロニクス技術で町とともに成長してきた

昭和42（1967）年の創業以来「株式会社アール・ティ・シー」は、町の発展と共に歩んできた企業です。エレクトロニクス技術をコアとした商品開発からモノづくりの一貫先端事業を展開し、産業機械やロボット、医療・介護等さまざまな分野に機器を供給しています。今後さらなる雇用を創出し、国内外での展示会などを通じ広く町とともに歩む企業として発信していきます。



ドイツから革新パワーツールをお届けします

農林建設機械の輸入販売をしている「株式会社スチール」は、北関東自動車道近くで、物流の拠点として将来性が高く、コストや人材確保面のメリットもあるとの判断から町に進出しました。気候が穏やかで交通にも便利な点もポイントに。祭りやイベントにも協賛しています。地元企業同士の相互理解によりクロスマーケティングを模索し、地域の活性化へとつなげます。



伸び続ける航空機産業を支える

航空機部品や、半導体・液晶製造装置の部品を製造している「株式会社オノプラント」。航空機産業の需要増大に因應するため、平成19（2007）年にテクノパークかみのかわに移転し、工場を拡大しました。団地は、価格・敷地面積・建ぺい率などの条件が良く、特に、敷地に区画の枠がなく、必要な面積を自由に確保できるところがメリットでした。町の人々が「入りたい」と思ってくれるような優良企業を目指しています。

まち 人 世界基準の活気ある産業

町をあげて工場誘致を進めた努力が実り、昭和39（1964）年、町中央部の大野地区に整備された工業団地全域に日産自動車の進出が決定しました。今ではここから月産3万台以上の車が世界に向けて送り出されています。他にも、通信やAV機器、アルミ製品を生産する企業など、約60社が町内で操業しています。

「テクノパークかみのかわ」は、東京都心から約80km、北関東自動車道の宇都宮上三川インターチェンジまで約9kmという利便性のよい立地。群馬・栃木・茨城3県の主要都市と国際港の常陸那珂港に直結するため、広域ネットワークを活かしたビジネスチャンスの拠点となっています。

周辺地域には自動車関連、精密機械、電気機械産業が立地し、一大産業コンプレックスが形成されています。今後もさらに、製造工場、研究所、事務所、研修所、物流施設など、多岐にわたる施設の進出が期待されます。これからも水と緑に恵まれた上三川町の利点を最大限に活かし、快適な田園工業都市として成長を続けられるよう、暮らしとさまざまな産業の融和を図っていきます。



産業人インタビュー

地域の人に愛されてこそ、ものづくりができる

日産自動車栃木工場勤務・伊藤和彦さん

昭和43（1968）年に始まった日産自動車栃木工場は弊社の国内工場では最大の面積で、高級車やスポーツカーを年間13～15万台生産しています。社員5,000人のうち1,600人が上三川町民であることから、地域に感謝し貢献していきたいと考えています。そのひとつ「NISSAN しらさぎマラソン大会 in 上三川」では、全長6.5kmにおよぶテストコースを開放しています。工場敷地内で行う「NISSAN しらさぎ祭り」では、ステージイベントやテストコースのバスツアーを住民のみならずにも楽しんでいただいています。また、教育や文化の発展のお役に立てればと、ゲストホールを講演会や発表会などにご利用いただくほか、社会貢献の専任スタッフを配置し、福祉作業所でつくられた製品の販売機会を提供するなど、さまざまな取り組みを行っています。



上/会社で祭りを主催するほか、地域の行事にも積極的に参加し盛り上げます。下/しらさぎマラソン大会では、社員でも普段入れないテストコースを開放しています。



右/熟練の職人が鞆を縫い上げる、老舗鞆メーカーの大映製鞆株式会社。石橋駅のそばのランドセル工場には直営ショップもあり、各種コンクールで入賞したこだわりの商品が並びます。左/東プレの栃木工場では、主に冷凍車・冷蔵車の生産をしています。低温から加温まで幅広い温度に対応可能な、独自の冷凍装置とコンテナを一貫生産し、みなさまに食の安全をお届けしています。



「黒チャーハン」で 上三川産食材の豊かさをアピール

かみのかわBQグルメ研究会 会長 保坂昌宏さん

上三川町のご当地グルメ「黒チャーハン」は、「かみのかわBQグルメ研究会」が考案したものです。元々は商工会青年部OBの集まりで「上三川のために何かやろう!」と盛り上がったことから始まりました。インパクトがあって、町で採れる食材を使ったおいしい料理を……ということ、特製ソースを使って黒い色を出したチャーハンにたどり着きました。ソースのほか、グリーンアスパラガス、ニラ、トマト、かんぴょう、玉ねぎ、豚肉、米など、町で採れる素材を使用することが基本になっています。



第1回とちぎ元気グルメまつりでは2日間で6,000食を売り上げ、準グランプリを受賞。

黒チャーハンが生まれたことで、今までつながりのなかった町内の生産者と飲食店に連携が生まれ、地元で採れる新鮮な野菜をお客さんに食べてもらえることになったことは、大きな変化です。平成24(2012)年の第1回とちぎ元気グルメまつりでは、堂々準グランプリを受賞。以来、毎年10回ほど、さまざまなイベントに出展し、町の食をアピールしています。現在、町内の7つの飲食店が黒チャーハンを提供しており、通過点でしかなかった上三川に食べに来てくださる県外の方もいるようです。



酸化しにくく、
からだに優しい植物油



ごはんピッタリ
無添加のお漬物

町特産のかんぴょうを漬けた「ゆうがお嬢」や、キュウリやニンジンなど7種の野菜を合わせてしょうゆ漬けにした「なかよし漬」。

ほっくり甘いあんの中
かんぴょうのアクセント



「福来べーさん」は、甘煮のかんぴょうを白あんの中に入れ、ふくべ(ゆうがおの実)の形に焼いたまんじゅう。

農業や化学肥料を使わずに育てた菜種・ひまわり・大豆の食用油。焙煎なしの生搾りで、不純物含まず精製度が高い。

おいしくて
カラダにいい!
ご当地グルメ
大集合



地産地消を目指した
オシャレな欧風メニュー

かんぴょうをはじめ、地産の野菜をふんだんに使用し、彩り鮮やかに盛りつけられた「かんぴキッシュ」と「ペイザンヌかんぴスープ」。



町を代表するB級グルメ「黒チャーハン」

まち 人

自慢のグルメがめじろおし

地産地消を目指し、B級グルメとして考案された「黒チャーハン」は、コンテストでも繰り返し優秀な成績を収め、上三川町の名を県内外に響き渡らせています。県内の生産者同士のつながりができたことも、大きな効果といえるでしょう。町内の中学校で学校給食のメニューにも採用され、子どもたちにとっても親しみのある料理として定着しつつあります。

歴史の古い特産品であるかんぴょうを使った漬物やお菓子は、身近な食べ物として食卓にぎわしたり、他地域の人へのお土産としてもよろこばれています。町内の搾油所では、安全性と品質にこだわった生搾りの食用油を生産し、希少性がリピーターを増やしています。

一級河川を有する水の豊かな上三川町は、古くから農業の盛んな地域です。近年では首都圏に近い地の利を活かした都市近郊型農業が盛んで、家庭の食卓を彩るさまざまな野菜や果物などが生産されています。そうした地元産の豊かな農産物の魅力を再発見し、町内外で広く親しんでもらうために、加工品を開発したり、目新しい料理を考案したり、工夫や努力が重ねられてきました。



右/黒チャーハンの色と味の決め手となる、オリジナルの「黒炒飯ソース」。「むかしなつかし館」で購入できます。

左/黒チャーハンの屋台はさまざまなイベントに出店し、町を盛り上げます。町内の中学校の給食にも供されるようになり、広く町民に浸透しています。

上三川・歴史年表

〈悠久の歴史の流れ〉

上三川町には、

狩猟採集の頃から人が住み着き、

それぞれの時代の権力に影響を受けながら、

脈々と暮らしが営まれてきました。

長きに渡った武士の支配が

終わりを告げて近代化を遂げ、

市民が中心となった社会が築かれる中で

現在のような田園と工業の町として

発展するまでの、

歴史の流れを振り返ってみましょう。

上三川地域のあけぼの
 古代〜室町時代

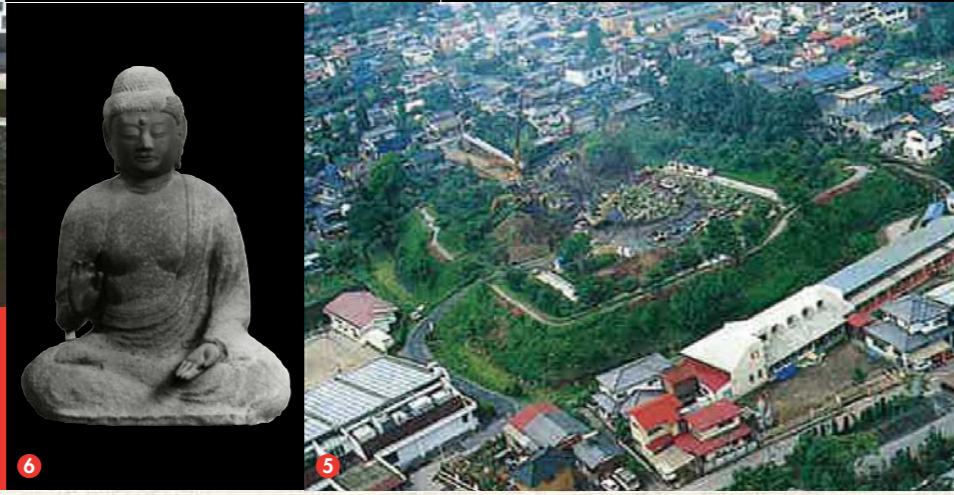


1 上三川地内で発見された最古の遺跡は、およそ二〜三万年前の頃のもの。見晴らしの良い台地に、狩猟採集をして暮らす人々が集落を築いたと考えられています。縄文時代の遺跡からは、土器や石斧や鏃といった出土品も多く発見されており、集落が長い期間に渡って続いていたことがうかがえます。古墳時代には、坂上古墳群をはじめとする古墳が多数つくられ、浅間神社古墳や愛宕神社古墳は、神社とともに今も大切に守り伝えられています。

豪族を中心とした政治から天皇中心の政治へ変わると、現在の栃木県全域は下野国として統合されました。上神主・茂原官衙遺跡は、下野国九郡のひとつ河内郡の役所跡とされています。また、平安時代中期につくられた辞書『和名類聚抄』には、河内郡に三川という郷があると書かれており、現在の地名に引き継がれていると考えられています。

鎌倉時代に入った頃、鬼怒川中流域一帯を治めていたのは宇都宮氏でした。そして、宇都宮氏から分家した横田氏が上三川城を、多功氏が多功城を、町域内に築きました。これらの城は宇都宮と結城を結ぶ街道沿いで、戦略的にも重要な位置であったため、長く存在し続けることになりました。

全国を動乱に巻き込んだ南北朝時代には、当時の宇都宮城主・基綱と小山義政との激しい合戦が河内郡内で起こり、義政が勝利を取ります。その後、宇都宮氏が不振の時期も上三川・多功は宇都宮勢として戦い、上杉謙信の軍や、数度に渡る北条氏の攻撃も打ち破り、武勇を誇りました。しかし、後継者問題をきっかけに、三五〇年の長きに渡って上三川地域を治めてきた宇都宮氏は没落。中世史の幕を閉じることになりました。



5



2



6



7

CLOSE UP

人名文字瓦

上神主・茂原官衙遺跡からは、約2300点もの「人名文字瓦」が出土しています。これは、遺跡内で唯一の瓦葺建物に葺かれていたものなのだから、刻まれている人名は、現在より約1300年前に河内郡内に住んだ人々のものだと言われています。

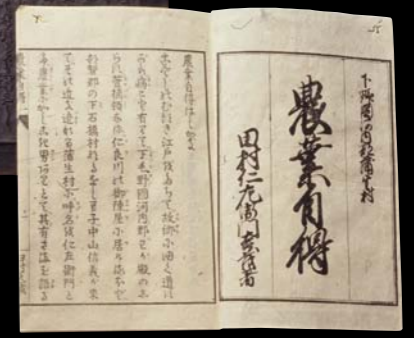
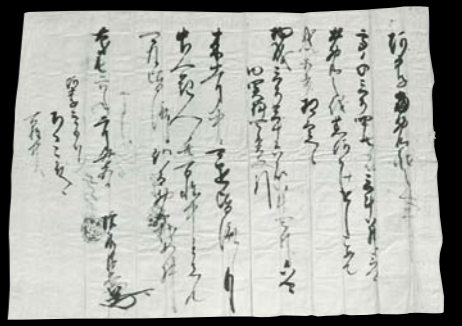


4

- 1 上神主・茂原官衙遺跡
- 2 島田遺跡から出土した石斧は、人々が狩猟採集をして暮らしていたことを教えています
- 3 上神主・茂原官衙遺跡から出土した鏡瓦
- 4 満願寺にある木造阿彌陀如来坐像
- 5 上三川城址公園
- 6 宝光院にある、薬師如来坐像
- 7 横田家累代の墓(町指定文化財)の宝篋印塔

室町時代			鎌倉時代				平安時代		奈良時代	飛鳥時代	古墳時代		弥生時代	縄文時代	時代													
永禄元年	元中9年	建武5年	元徳元年	正和12年	宝治3年	宝治2年	建久3年	天慶2年	延暦13年	和銅3年	4C末〜5C初頭		239年	約1万年前	元号													
1558年	1392年	1338年	1329年	1313年	1249年	1248年	1192年	939年	794年	710年	694年	538年	4C末〜5C初頭	239年	西暦													
下野に侵入	上杉謙信、	上野謙信、	足利尊氏、	征夷大將軍	となる	源頼朝、	征夷大將軍に	平将門が	下野国府を	攻め、	これを焼く	藤原京に	都が遷る	百濟より	仏教が	伝来する	卑弥呼、	女王となる	稲作が始まる	(仏沼遺跡など)	上三川の	町域にムラが	つくられるよう	になる	(島田遺跡など)	できごと・文化財		
佐野豊綱が	多功城に攻め入り、	城主多功長朝が	これを討ち取る			多功城が落成	上三川城が落成	薬師如来坐像	(宝光院)が	つくられる	6																	

近世から終戦まで
安土桃山、昭和初期



1 1601年に書かれた川中子村年貢割付状には、年貢上納の状況や割り付けが記されている。2 1841年に著された『農業自得』（左上二コマ参照）。3 探掘停止となった日光石で作られた鳥居。昔は神社の参道の南端である普門寺の東にあった。4 1902年の、本郷村上郷堤防の決壊。鬼怒川をはじめとする河川はたびたび洪水を起し、人々を苦しめた。5 昭和初期の中町付近「上三川町市街地下水工事記念」とある。



上三川町市街地下水工事記念

『明治35年大暴風雨記念写真帖』木村作次郎／著
河内郡本郷村上郷堤防ノ破壊（三百八十四餘間ノ決潰）
栃木県立図書館所蔵

CLOSE UP

農書 『農業自得』

荒廃していく農村の復興への取り組みとして著された、近世を代表する農書で、上三川の篤農・田村仁左衛門吉茂の著作。記述は具体的かつ合理的な経典的。自らの実験的な経験の記録に基づく科学的な分析によって、効率のよい農法を考察した。



石橋駅

石橋駅は、明治十八（一八八五）年、大宮・宇都宮間が開通すると同時に開業。上三川地区の輸送上、たいへん重要な役割を果たしてきた。明治二十年当時、上野・石橋間の所要時間は三時間二十分だった。

豊臣秀吉が天下統一への動きを進め、関ヶ原の戦いを経て徳川幕府が開かれます。上三川地域も、戦後処理に沿って領主が配されました。この時期宇都宮城は家康の外孫奥平家昌が受け継ぎ、上三川地域の北部は宇都宮藩、中心部は烏山藩の飛地領でした。その後全国的な財政の立て直し政策の中、上三川地域も再編が行われました。室町時代後期に始まった兵農分離は、上三川地域では江戸時代になって徹底され、十七世紀中頃から末期にかけて小農の自立が広がり、やがて農業技術の進歩と耕地の拡大で生産力を増した小農は百姓一揆を起すようになります。江戸中期には商業・流通が発達し、商品貨幣経済が定着。商品作物を作るようになった農村も貨幣経済に巻き込まれ、その結果借金に喘いだ農民が農地を手放すなど矛盾が生じました。その上自然災害や重税も重なり、十八世紀半ば以降には上三川地域でも農村が衰退します。また同時に、田村仁左衛門吉茂が農業技術や経営について書いた農書『農業自得』を著すなど、農民による復興への努力も行われました。十九世紀半ばに幕府は天保の改革に失敗。慶応三（一八六七）年の大政奉還で江戸時代が終わると、日本は急速に近代化を遂げることとなります。明治政府による廢藩置県が明治四（一八七一）年七月に行われ、その四カ月後栃木県と宇都宮県になり、上三川地域の村々は宇都宮県下に。明治六（一八七三）年には栃木・宇都宮両県が合併して栃木県となりました。以降現在に至る都道府県・市区町村の原型が完成すると、本町域では、上三川村・本郷村・多功村（後に明治村と改称）が誕生し上三川村は明治二六（一八九三）年に町制を施行しました。氾濫を繰り返していた鬼怒川は、大正五（一九一六）年に本格的な改修に着手。昭和に入ると外国製の新式機械の導入で最盛期に。上郷堤防も完成し、人々は恒常的な洪水の被害からまぬがれます。鬼怒川や思川での物資輸送は鉄道開通で衰退し、大正元（一九一二年）、県内にも自動車が登場しました。明治十八（一八八五）年には大宮・栗橋間、中田・宇都宮間の鉄道開通と同時に石橋駅が開業。電報、電話も徐々に整備され、現代的なインフラの基礎が築かれました。

昭和時代			大正時代		明治時代						江戸時代						安土桃山時代			時代				
昭和16年	昭和12年	昭和元年	大正8年	大正3年	明治35年	明治27年	明治26年	明治23年	明治21年	明治19年	明治18年	明治6年	明治4年	慶応4年	天保12年	宝永5年	元和6年	慶長8年	慶長6年	慶長2年	天正10年	元龜3年	元号	
1941年	1937年	1926年	1919年	1914年	1902年	1894年	1893年	1890年	1888年	1886年	1885年	1873年	1871年	1868年	1841年	1708年	1620年	1603年	1601年	1597年	1582年	1572年	西暦	
太平洋戦争が始まる	日中戦争が始まる			第一次世界大戦が始まる		日清戦争が始まる		府県制・郡制の発布	市町村制発足	四学校令公布。学校制度の基礎ができる	大宮・宇都宮間の鉄道が開通		廃藩置県が行われる	江戸城開城			江戸幕府が開かれる			織田信長、京都本能寺にて自害				できごと
	国威発揚行事を多数開催		鬼怒川改修工事がスタート	石橋駅にて5人乗りの乗合自動車の営業を開始	鬼怒川大洪水で大きな被害が出る…④		上三川村が町制を施行、上三川町になる		上三川村・本郷村・多功村（後に明治村と改称）が誕生	石橋駅開業		下野国に栃木県と宇都宮県がおかれる	世直し騒動が起こる	「農業自得」が著される…②			上三川城付領一万石の検地が行われる	白鷺神社の鳥居がつくられる…⑤		川中子村年貢割付状がつくられる…①	上三川城、多功城廃城	多功長朝、北条氏政の軍勢から多功城を守る	上三川のできごと・文化財	

新生上三川町の誕生
 ―戦後、町村合併まで―



①合併祝賀会では、初代町長・小口隆次が式辞を述べた。②③④合併前の本郷村役場(2)、上三川町役場(3)、明治村役場(4)。⑤建設中の鬼怒大橋(昭和28年)。⑥小口隆次初代町長

太平洋戦争が終結して民主化が進むと、地方自治の強化もより重要性を持つようになりました。明治以来国が主体であった町村制は、住民により良いサービスを提供する公共事業団体としての機能を求められ、合併による行財政力の強化を目指します。国は昭和二十八年(一九五三)九月一日「町村合併促進法」を制定。翌年五月には栃木県でも八市三八町村とする合併案が立案されました。

その流れを受けて、現上三川町域を含む河内郡南部地域でも合併問題が浮上します。本郷村、上三川町、吉田村、薬師寺村、明治村の一町四村は、昭和二九(一九五四)年一月に上三川町役場で会合し、合併問題について最初の懇談を行いました。これらの町村が、古くから河内郡南部ブロックとして上三川町を中心に行事を行っていた流れです。しかし各々の利害関係や思惑が絡んですんなりとはいかず、五月に行われた二回目の委員会で吉田村と薬師寺村が離脱。残った本郷村・上三川町・明治村の各町村議会では、すぐに合併の議決

が行われました。

ところが、明治村のうち田川以西を石橋町に編入する県の提案との食い違いから、知事小平重吉が町村側の合併案に反対します。町村側はあくまでも合併実現を目指し、合併申請書の提出はできぬままに事務手続きを進化する事態に。合併促進協議会は、陳情書を県議会議員、促進審議会委員に提出、十一月五日には国の所轄行政庁である自治庁(現総務省)を訪問し要請。十二月二日には、議会と各種団体による陳情団が県庁に向き陳情書を手渡ししています。十月二日の鬼怒大橋開通は、このような合併実現運動のさなかのことでした。

小平知事が職を辞して小川喜一新知事になると、昭和三十(一九五五)年三月に県議会で二度目の合併の議決がなされます。同日知事に提出された合併申請書は即刻受理され、満場一致で可決されました。議場の傍聴席から「万歳」の声が湧き上がり、ここに人口一万九千七百七十八人、三千百戸の上三川町が産声を上げました。正式な発足は四月二十九日の天皇誕生日。合併祝賀会は恒例の秋祭りに合わせて十一月十六日、町内外の関係者約五百人を上三川小学校に招き、盛大に行われました。

昭和 30 年 1955 年					昭和 29 年 1954 年				昭和 28 年 1953 年	元号 西暦		
11 月	5 月	4 月 29 日	4 月 28 日	3 月 28 日	2 月 5 日	10 月 2 日	5 月	5 月 2 日	3 月	1 月	9 月 1 日	月日
上三川小学校にて合併祝賀会を挙行	新上三川町長に小口隆次が当選⑥	上三川町、本郷村、明治村が合併。新生上三川町が誕生。上三川町役場前庭で開庁式を開催	各町村にて廃庁式を挙行	県議会で2度目の合併の議決が行われる	新栃木県知事に小川喜一が就任	鬼怒大橋が竣工⑤	吉田村と薬師寺村が離脱を表明	栃木県でも町村合併に関する計画を立案	第2回を開催	合併推進委員会を開催 第1回	「町村合併促進法」を制定。同年10月から施行	できごと
												上三川の できごと・文化財

いきいきと暮らせる町へ
 町村合併後、現在



①バインダーが普及し始めた頃の稲刈りの様子(1945年)
 ②大規模な防災訓練が行われた(1957年)
 ③普及に力を入れた町民体操はテレビ放映で全国に紹介された
 ④県立高校を誘致。校名は上三川高校と決まり、第1期生が入学した
 ⑤栃の葉団地で、上三川町は馬術競技の会場となった。県勢が総合優勝を果たした
 ⑥町道300号線開通式でのテープカット
 ⑦かみのかわ工業団地が操業開始

昭和三四(一九五九)年五月に落成し二一年間市民に親しまれた上三川町庁舎は、五五年に引退。新庁舎には町行政の近代化と民主的なまちづくりへの願いが込められました。四八年七月には、ステージ付きの大きな集会所や視聴覚室・図書室など、充実した設備が整った中央公民館が開館します。待ち望まれた図書館が完成したのは五八年のこと。隣には、町民の健康づくりの拠点である保健センターが同時に落成し、文化の発展と健康増進のシンボルとなりました。三五年に始まった町民体育祭や、五七年から続く「ふるさと祭り」など、町民の楽しみとなる行事も増え続け、河川敷や豊かな自然を利用した公園施設も次々に完成。ますます豊かさを実感できる町へと成長していききました。

高度経済成長を背景に上三川町は積極的に工場誘致を進め、昭和四十年代から工業団地がつけられるようになっています。町が栃木県と共同で計画していた大野地区工業団地には三九年に日産自動車の誘致が決定。四三年に操業開始し、

県内随一の規模を誇る工業団地が誕生しました。平成七(一九九五)年五月には日産自動車栃木工場東の緑豊かな環境に、かみのかわ工業団地が操業を開始しました。

交通網の発展が上三川町に与えた影響は計り知れません。昭和四六(一九七二)年十二月に開業した宇都宮貨物ターミナル駅は、東京貨物ターミナル駅に次ぐ輸送量となり、交通の要衝としての上三川町の存在を増大させました。六三(一九八八)年六月に町道300号線が開通すると、宇都宮貨物ターミナル駅に出入りする運送車両の通行が円滑になり、大山街道の混雑が緩和。平成二(一九九〇)年には重要な生活道路として県道へ格上げに。北関東自動車道が全線開通したのは二二(二〇一〇)年三月のことでした。

工場の誘致で激変する上三川町では、農業も姿を変えていきます。昭和三十年代後半から農業構造改善事業に着手。洪水を防ぐ河川の改良や土地改良、大型農機具の導入、野菜の集荷所等の大型施設の設置で近代化が進みました。さらに交通網の発達により首都圏の食料基地として重要な役割を担う存在に。一方産地間競争の激化や後継者不足などは厳しさを増し、課題の克服が迫られています。

平成27年	平成24年	平成23年	平成22年	平成17年	平成15年	平成7年	平成6年	平成5年	平成4年	昭和63年	昭和61年	昭和58年	昭和55年	昭和49年	昭和48年	昭和46年	昭和43年	昭和39年	昭和37年	昭和34年	元号	
2015年	2012年	2011年	2010年	2005年	2003年	1995年	1994年	1993年	1992年	1988年	1986年	1983年	1980年	1974年	1973年	1971年	1968年	1964年	1962年	1959年	西暦	
4月	2月		2月		8月	5月			12月	6月	11月	3月	10月	8月	7月	12月			6月	5月	月日	
		東日本大震災		インターネットの普及率が70%を超える		松本サリン事件									オイルショック		東京オリンピック					できごと
上三川町合併60周年	上三川町マスコットキャラクター「がみたん」決定	北関東自動車道全線開通	新宮岡橋が開通		上神主・茂原官衙遺跡が国指定史跡となる	かみのかわ工業団地操業開始⑦			第1回上三川城址公園花まつり、第1回「いきいきかみのかわ祭り」開催	多功南原工業団地(テクノパークかみのかわ)分譲開始	町道300号線開通⑥						中央公民館が開館	宇都宮貨物ターミナル駅が輸送業務を開始	日産自動車栃木工場竣工		「町民体操」がテレビで全国に紹介される③	上三川の「できごと・文化財





夏
Summer



春
Spring

第3章

上三川・歳時記

華やかな季節の流れ



Spring Event

- 3月 公民館フェスティバル
- 4月 雷電宮祭

Summer Event

- 7月 かみのかわ町おこし夏祭り
夕顔サマーフェスティバル
- 8月 愛宕神社奉納相撲
かみのかわサンフラワー祭り



自然と人が営む四季折々の情景と、色とりどりの感動が町にはあふれています。



Winter Event

- 12月 NISSANしらさぎマラソン大会 in 上三川
- 1月 初市
どんど焼き
- 2月 節分祭
NISSANしらさぎ駅伝競走大会 in 上三川



秋
Autumn

冬
Winter



Autumn Event

- 9月 NISSANしらさぎ祭り
- 10月 上三川町文化祭
- 11月 かみのかわふる里まつり (稚児行列)



スポーツ



原 芽衣さん
(はらめい) 4年生
父親の卓球教室で日々練習に打ち込む原芽衣さん。「練習をしている時が一番楽しい」という彼女は全国でも活躍する期待の星です。

オリンピックで
金メダルを取りたいです!!

自然環境



須田さくらさん
(すださくら) 6年生
ちょっと恥ずかしがりやな須田さくらさん。学校ではバスケットボールに打ち込む、元気で活発な一面を持つ女の子です。

いつまでも豊かな自然が
残っていてほしいです

社会
貢献

第4章

上三川・世代交流

受け継がれる人の流れ

これから先、上三川がどんな町になってほしいのかを子どもたちに聞きました。今、大人たちは豊かな町の実現に向けてすでに活動を重ねています。大人から子どもたちへと受け継がれる思いが未来をつくっていくのです。

みんなが助け合える町に
なったらいいな



右 / 中三川 湜明くん
(なみかわ こうめい) 6年生
左 / 伊藤 和也くん
(いとう かずや) 5年生
中三川湜明くんは町の60周年式典で表彰されたこともあるほど絵の得意な男の子。野球に打ち込む活発な少年が伊藤和也くんです。

子どもたちが

夢見る

かみのかわ

子どもたちが夢見るのは
誰もが助け合いながら豊かに暮らせる町
安心して暮らせる町、活気あふれる健康的な町
そして、自然あふれる里山が
いつまでもそばに残っている町。
「こんな町にしたい」
「こんな町になってほしい」
子どもたちの言葉には希望が詰まっています。

防犯・
防災



佐野心玲さん
(さのみれい) 6年生
3歳から始めたピアノを今でも続けている佐野心玲さん。大好きなものは音楽です。小学校3年生からは書道にも力を注いでいます。

子どもたちだけでも
遊びに行ける
安心できる町になってほしい

助け合いの社会を作るボランティア。
ぜひ皆さんも活動に参加してください

私が会長を務めるボランティア連絡協議会には現在15団体が所属しています。連絡協議会の主な役割は個別に奉仕活動を行う各団体をつなぎ、それぞれがより活動しやすい環境を整えることです。具体的には年一度の総会を開催し団体間の連絡や関係を密に。加えて地道に活動するボランティア団体のPRも行っていきます。また講師を招いての研修会や他県を視察するバス研修によってボランティア活動のレベルアップを図っています。もちろん、私自身も楽らく隊という団体を作り、もう10年は奉仕活動に携わっています。そば打ちや健康体操などを通して高齢者が健康で元気に暮らせるようサポートをしています。東日本大震災以降は上三川町でも災害ボランティア活動が活発になってきましたね。なお、災害ボ

ランティアは社会福祉協議会が主催ですが、運営は私達ボランティア連絡協議会が町と協力して行っているんです。人々が助け合いながらより良い地域社会をつくるためにボランティアはとても大切です。そのために私たちは常に各団体の活動が円滑に行われるか、かつ研鑽を積めるよう務めています。私からもぜひボランティアに参加してみてください。



行政イベントにも協力しているボランティアふれあい健康福祉まつりでは豚汁の販売を行った。

社会貢献



原田信道さん
ボランティア連絡協議会の会長を務める原田信道さん。ボランティア団体「楽らく隊」にも携わるとともに、今も奉仕活動の活発化に尽力している。

上三川町 ボランティア連絡協議会

- 協力団体数 15 団体
- 個人会員数 70 名
- 協力団体
- 赤十字奉仕団
- 更正保護女性会
- 身体障害者福祉会
- 楽らく隊
- シルバー大学校同窓会
- 手話サークルなかも
- 朗読コスモスの会
- 点字サークルぼつてん
- 日産自動車株式会社
- 子供会育成会
- 保護司会
- 民生児童委員協議会
- シルバークラブ連合会
- 上三川町手をつなぐ育成会
- 上三川高校社会福祉部

かみのかわ

大人たちが
つくる

「こんな町になってほしい」という子どもたちの希望。大人たちはすでに豊かなまちづくりに向けて活動を行っています。さまざまな分野で活躍する大人たちの中でも上三川町の人からつくる4人の方にお話を伺いました。子どもたちの描く夢は、実現に向けて動き出しているのです。

防犯・防災



伊東文雄さん
勤めていた会社を定年退職後、石田地区自治会の活動に携わる伊東さん。ふと声をかけられた時に地域の方とのつながりを感じるという。

私の所属する石田自治会ではさまざまな防犯・防災対策に取り組んでいます。毎年12月には地区内の夜間防犯パトロールを行っています。上三川町石田地区の5つの自治会の代表や上三川交番の方、役場の防犯・交通防災の方など15人程度が集まって、5つのうちの1つの地区をまわっています。各家庭を訪れて施錠の徹底や犯罪に巻き込まれないための声かけを行うのが主な目的。夜間の防犯パトロールは私が自治会の防犯・防災活動に携わる前から続いていますから、その歴史はもう30年以上になるでしょうか。夜間パトロール以外にも各自の集会の時には、役場の防犯交通関係の方と話し合いを行ったり、街角での声かけ運動も行っています。また、子ども



昨年12月に行われたパトロールの様子。18時頃に集合し連絡事項を確認。その後、30分から1時間をかけて地区内の家庭を訪問した。

安全で安心して暮らせる町にするために
地域全体で防犯活動に取り組んでいます

たちの安全のために、定期的に学校や自治体と情報交換の場を設けています。以前は、朝夕通学路に立つ見守り隊もしていました。やはり「危険な場所を知っている」「誰かが子どもたちを見守っている」というだけで安心感は大きく違いますね。生活そのものは実際にその地で暮らしている私たちが一番よく分かっています。ですから、防犯・防災対策は地域全体で取り組んでいくことが大切だと思います。そのために私たちは、日々パトロールや意識向上の声かけをしています。

スポーツ



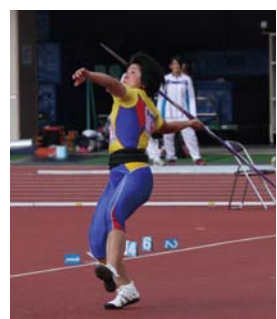
海老原有希さん
上三川小学校、上三川中学校を経て、栃木県立真岡女子高等学校に入学。インターハイでは、やり投げで準優勝、七種競技で優勝。国士館大学卒業後、ススキ株式会社に入社。2012年には、ロンドン五輪に出場した。

努力の向こうに広い世界が広がります。
初心を大切にスポーツを楽しんで！

やり投げを始めたのは高校生の時からです。小学校では野球、中学校ではバスケットボールをしていました。陸上部の先生は「やりたいことをやればいい。でも、肩が強いんだから、高校ではやり投げに挑戦しなさい」と助言してくれました。その言葉がきっかけでやり投げに興味を持ちました。家族の後押しもあって、陸上の強豪校である真岡女子高校に進学して、やり投げを始めたのです。

今、スポーツをしている子どもたちは、初めてそのスポーツを始めたときの気持ちや思い出してください。このスポーツをやりたい！と思った気持ちや、すべてが源です。そして、その気持ちや応援してくれた周りの人たちがいる。努力を積み重ねた向こうには広い世界が広がっています。どうか初心を大切に、スポーツを楽しんでください。

高校ではインターハイで勝つこと、大学では世界大会に出場すること、そして、今は世界のトップ選手に挑戦して入賞することを目標としています。その先に広がる世界が見たい！その気持ちや、私が競技を続けてきた原動力です。



アジア大会や日本選手権での優勝を重ねつつ、日本記録も4度更新している。今も女子やり投げ日本記録を保持している。

海老原選手 競技成績

- 出身 栃木県上三川町
- 所属 ススキ浜松アスリートクラブ
- 女子やり投げ 日本記録保持 (63m80cm)
- 戦績
- 第15回アジア競技大会 (2006年/ドーハ) 銅メダル
- 第16回アジア競技大会 (2010年/廣州) 金メダル
- 日本選手権優勝 2006年、2008年、2009年、2010年、2012年、2013年、2014年、2015年

自然環境



津野田守さん
「いろいろな方を巻き込みながら活動を大きくするのが好きです」と語る津野田さん。農業に従事する傍ら、里山の再生と保護に務める。

里山の再生には成功したので
これからは次世代に残すことが目標です

以前、この地域の里山はひどく荒れていました。地域の関心が薄くなるにつれて森が減り、最後にはゴミの不法投棄まで。平成15年に上神主・茂原官衛遺跡が国史跡に指定された時にこのままではいけないと始めた活動が今の上神主・茂原官衛遺跡振興会です。振興会の主な活動は遺跡と里山の清掃と保護、そして地元の小中学生を対象とした里山イベントです。遺跡の除草作業は春と秋の年2回。里山の清掃は毎年9月から1月まで各月3回ほど、日曜日に除草作業や枯れ木・倒木の片付けを行っています。里山はきちんと管理すればとても美しい姿を見せてくれます。大鷹やキツネ・野うさぎなど多様な生物の生息地となります。それにより、とても気持ちが良いんですよ。



小学生を対象とした里山イベントを不定期で開催する上神主・茂原官衛遺跡振興会。近隣の学校・大学とも協力し、教育に優れた効果を与えている。

です。ね。清掃作業の日はずっと森の中でお昼ご飯を食べるのですが、これがまたおいしいし楽しいんですよ。そんな里山の森を知ってもらいたい、身近に感じてもらうのって思っています。自然に目一杯触れて、自然の中で家族みんなで食事をしてもらう。森を駆け回ったり木登りをして子どもたちを見るのはとてもうれいんですし、これからは里山をこのまま残していかなければならないとも思っています。

第7次総合計画

「明るい未来への流れ」

豊かな自然や活力ある産業など、先人から受け継いだ貴重な地域資源にさらに磨きをかけて次世代へ引き継ぎ、明るい未来を創るために町の将来像を定めました。

活力のまち 上三川

基本目標

施策項目

「安心安全・定住」のまちづくり

- 消防・防災体制の充実
- 交通安全・防犯体制の充実
- 調和のとれた土地利用の推進
- 市街地の整備
- 住宅施策の充実
- 上・下水道の整備

「子ども・健康・福祉」のまちづくり

- 子ども・子育て支援
- 子育て支援の充実
- 学校教育の充実
- 健康・福祉
- 社会福祉体制の充実
- 高齢者支援の充実
- 障がい者支援の充実
- 健康づくり・医療体制の充実

「産業・しごと・活力」のまちづくり

- 農業の振興
- 商業の振興
- 工業の振興
- 消費者対策の充実

「交通・交流・連携」のまちづくり

- 道路・交通網の整備
- 国際化、地域間交流の推進
- 観光・レクリエーションの振興

「人・文化・スポーツ」のまちづくり

- 生涯学習の充実
- 青少年の健全育成
- 芸術・文化の振興
- スポーツの振興

「自然・環境」のまちづくり

- 公園・緑地・水辺空間の整備
- 環境衛生の充実
- 環境・景観の保全と創造

「コミュニティ・地域力」のまちづくり

- コミュニティ活動の推進
- 男女共同参画社会の形成
- 人権尊重社会の実現

「協働・健全財政」のまちづくり

- 町民と行政との協働体制の確立
- 情報ネットワークの推進
- 自立した自治体経営の確立

上三川町の特性を踏まえつつ、

総合的かつ計画的な行政運営を進めるための指針が「総合計画」です。

第7次総合計画はこれまでのまちづくりを継承しつつ、人口減少や高齢化に伴う社会経済情勢の大きな変化の中でも豊かな自然・活力ある産業・良質な住環境といった地域資源を次世代へ引き継いでいくことを念頭に置いています。

そして、10年後に上三川町が目指すべき姿を「共に創る次代に輝く安心・活力のまち 上三川」と決めました。「共に創る」とは、コミュニティやボランティア団体との交流・連携を深めて行政と町民が共に考え共に行動する協働と参画のまちづくり環境の形成を指します。「次代に輝く」とは上三川町の持続的な成長を図るため自然や産業・住環境などの資源を磨きいつまでも住み続けることのできる

魅力あふれた環境の形成を指します。そして、定住の場、就業の場として高齢化への対応や子育て支援・災害対策・しごとの確保に取り組むことで誰もが安心して暮らすことのできる「安心・活力のまち」をつくりたい。

その実現に向けて示す方向性が8つの基本目標であり、主要施策を各分野に沿って体系的に示したものが施策項目です。ここでは、各基本目標と施策項目の中から特に重要なものを詳しく紹介します。



町の将来像

共に創る 次代に輝く 安心・

①「安心安全・定住」のまちづくり

町民の安心安全な暮らしを確保するため、地域防災力の強化や雨水対策に努めます。同時に、定住の場としての機能強化に向けて秩序ある土地利用に基づく快適な居住環境の形成を目指します。

消防・防災体制の充実

上

三川町の消防・救急体制は、石橋地区消防組合による常備消防と消防団による非常備消防が担っています。町では、地域防災の要として重要な役割を担う消防団の活動を活性化させるため、消防団員の安定確保対策や教育・訓練の実施、消防施設・車両の充実を図ります。また、石橋地区消防組合の消防施設や設備の充実、消防職員の教育・訓練により常備消防及び救急体制の充実を図ります。さらに、総合的な防災体制の確立や、防火・防災意識の高揚を図るため、広報紙や防災マップによる情報提供や、大規模災害時における被害軽減を図るため、自主防災組織の設立・育成を推進します。

また、台風やゲリラ豪雨による河川の氾濫被害を防ぐため、主要

河川の危険箇所は早期改修を要請し、中小河川は治水機能の強化に向けて整備を進めています。同時に市街地では公共下水道の雨水整備を進めます。

万が一の火災に備えて、上三川町では総合防災訓練も行っています。



交通安全・防犯体制の充実

安

全な道路環境づくりへの努力にもかかわらず、上三川町では現在も交通事故が絶えない状況にあります。そのため交通安全教育の実施や春・秋の交通安全運動期間を中心とした啓発活動を今まで以上に推進していきます。あわせて安全な道路環境を確保するため、交通量の多い路線を対象に信号機や横断歩道などの交通安全施設の設置要望を図ります。特に「子どもたちが安全に通学できる環境」を実現するために、上三川町通学路交通安全プログラムを実施し危険箇所の把握や、防護柵を設置するなどの対策を急ぎます。さらなる安心・安全なまちづくりのために、広報紙やパンフレットの配布・各種行事を通じた啓発活動により、町民の防犯意識を高め、地元住民による自主的な地域安全活動が促進されるよう努めていきます。同時に防犯灯の新規設置・修繕と道路や公園など公共空間の死角の解消や見通しの確保をすることで、未来に向けて「犯罪の起こりにくい環境」を整備していきます。



防犯訓練や交通安全県民総ぐるみ運動は、防犯や交通安全の意識を高める役割を担っています。



上三川町 TOPICS

「自分たちの地域は自分たちで守る」上三川町消防団も発足 60 年

上三川町消防団が設立されたのは昭和 30 (1955) 年、町政とともに 60 年を迎えています。発足当初は 10 分団でしたが、昭和 52 (1977) 年に 3 分団 22 部となり、平成 8 年には現在の 4 分団 12 部に再編成されました。「自分たちの町は自分たちで守る」という精神に基づき、火災や震災・台風などの風水害における活動だけでなく防災啓発でも活躍。「郷土愛護の奉仕精神」で人々の生命・身体・財産を守る、地域における消防・防災の中心的存在です。



平成 27 (2015) 年 4 月 4 日、中央公民館において行われた消防団の辞令公布式の様子です。この時の新入団員は 14 人。交付式の後は早速石橋地区消防組合上三川消防署の署員から規律訓練を受けました。

上三川町 TOPICS

交通安全県民総ぐるみ運動で交通安全への意識を高める

栃木県の交通安全県民総ぐるみ運動にあわせて、上三川町でもさまざまな取り組みを行っています。平成 27 (2015) 年秋の交通安全県民総ぐるみ運動では、町内 3 か所において、各種団体が参加しての街頭指導を実施しました。また、「交通安全母の会」によるひと声運動での子どもたちへの注意喚起や、「交通安全協会女性部会」によるスーパーマーケットなどにおける啓発活動も。より安心して暮らせる町の実現にむけ、上三川町では常に交通マナーと交通安全に対する意識の向上を目指しています。



交通安全県民総ぐるみ運動
栃木県が主催する交通安全の意識の普及・浸透を図るための運動です。春・秋・年末の年に 3 回実施。交通事故防止の徹底を図っています。

調和のとれた土地利用の推進

上 三川町は豊かな水と緑の環境と工業団地を有する産業のまち・住宅のまちです。土地利用構想はこうした都市空間構造を基礎としつつ「町の将来像」を据えて設定しました。

町民の憩いの場として潤いのある水・緑環境をつくっていきます。



市街地と田園地帯、商業地と工業地帯など特色ある上三川町の風景。

市街地の整備

並 木山王地区・石橋駅東地区・多功南原地区では土地区画整理事業を実施。本郷台地区・上三川インターパーク・石田南地区への地区計画が導入されるなど、すでに良好な市街地の形成に向けて取り組みは始まっています。今後は、既成市街地の住環境改善や道路の整備などが必要な地区への対応を進め、魅力ある中心市街地や新たな産業立地の形成を促します。そして、都市計画道路による円滑な道路ネットワークを構築していきます。

住宅施策の充実

よ り暮らしやすいまちづくりのために、上三川町の特色である「職住近接」の良質な定住の場という環境を守ることがとても重要です。そのために公共交通ネットワークが構築され都市機能が集積したコンパクトなまちづくりを検討します。また、上三川町の活力を支える定住人口確保のため町内の永住希望者や町外からの移住希望者を対象に住宅取得支援などの定住促進施策や空き家の情報提供・マッチング支援に努めます。

上・下水道の整備

上 水道に関しては、安全でおいしい水の安定供給を図るため上水道の普及率向上を目指します。また、災害に強い水道施設の整備や経営の効率化を行い、ライフラインとしての危機管理強化

につなげていきます。下水道に関しては、公共用水域の水質汚濁防止と生活環境の改善を図るため、富士山地区・上梁地区・石田地区の公共下水道を整備していくとともに、農業集落排水の各処理区内における水酸化を促進するための啓発・PR活動に力を入れていきます。

基本目標

2 「子ども・健康・福祉」の

まちづくり

県内でも有数の「子どもを産み、育てやすい環境」のさらなる充実を図り、地域と連携した特色ある学校教育の展開に努めます。誰もが健康で住み慣れた地域に暮らし続けることのできる環境をつくりまします。

子育て支援の充実

今 社会に求められているのは、安心して子どもを産み育てることのできる、環境と心身両面でのサポートです。まず、妊婦と胎児の健康を確保・増進するため、妊娠・出産・育児期の切れ目のない支援を基本とし、妊婦に対する健診や保健指導の実施、育児不安等に対する相談支援体制の充実を図ります。子育て支援センターの運営体制および事業内容の強化を図るとともに、保育所の民営化を進め保育サービスを充実化。医療費の助成や、保育料の減免など、子育てに対する経済的支援を推進します。

子育て家庭を地域全体で支援できるようにネットワークづくりを目指す。指し、子どもを事故や犯罪から守るため「地域の安全見守り隊」の継続など、具体的な安全対策の実施を図ります。



ベビーサロンや発育測定、あったか相談などを実施している上三川町子育て支援センター「あったかひろば」。

上三川町 TOPICS

支援センターの充実で「子育てしやすい」町に

上三川町には子育てを支援する拠点として「子育て支援センター」があります。子育て中の親子が自由に利用できる施設で、保育士が子育てに関する相談に対応しているほか、子育てに関する地域の情報や子育て家庭の交流、および子どもの遊びの場を提供しています。



学校教育の充実

学 校には、特色ある教育活動を推進することが求められています。そこで小・中学校が連携して、9年間の学びの連続性を踏まえたカリキュラムや学習効果の高いICT機器の積極的な導入を図ります。また、児童・生徒が自ら考え、判断し、主体的に学習に取り組むことができるように思考力・判断力・表現力を高める言語活動の充実やアクティブラーニングを積極的に導入していきます。

教育内容と同時に、教育の支援体制も充実を図ります。優れた教員の養成と確保を進めるとともに、地域連携教員や学校支援コーディネーターなどの人材を活用し、地域に根ざした学校づくりを目指します。また、信頼される開かれた学校づくりに向け、学校評議員会や保護者会、ホームページや配信メールを活用して学校と家庭・地域が連携と支援を行える体制を確立し、さまざまな教育的ニーズに対応できるように、スクールカウンセラーやスクールサポーターの配置、適応指導教室における支援体制の充実などに努めます。



特色ある学校教育を推進し、本町の将来を担う子どもたちを育てます。



障がい者支援の充実

障 がいのある方の支援推進体制を充実させるため、以下の点を重点的に進めていきます。

障がいのある方の自立した生活を後押しするため、町ホームページや障がい福祉ガイドによって、障がい福祉に関する情報をより詳しく伝えていきます。続いて、経済的な支援を推進。「重度心身障がい者医療費助成事業」や「難病患者等福祉手当」などを継続的に実施し、経済的負担の軽減に努めます。また、障がいの早期発見・早期療育体制を確立するため、療育機会の確保や障がい児保育を充実。上三川障がい児・者生活相談支援センターの活動を周知し、障がいのある方も家族も相談しやすい環境を整えます。

また、「上三川ふれあいの家ひまわり」の機能強化により、日中活動系のサービスを充実させ、支援する家族の一時的な休息のための時間を確保。地域生活の維持に向けた環境整備を図ります。



福祉体験を通じて障がいへの理解を深めるとともに、障がいのある方が生き生きと暮らせる町を目指します。

高齢者支援の充実

2 025年を目処に地域包括ケアシステムを構築するための施策と介護予防を重視した施策の展開を図り、地域全体で高齢者を支える仕組みづくりを進めていきます。高齢者が自立した日常生活を営むことができるように生活機能の維持向上を図るためのサービスを展開。介護予防に関するボランティア等の人材や地域活動組織の育成・支援を図ります。

地域包括支援センターは複合的な機能強化に努め、在宅医療・在宅介護連携、ならびに認知症支援施策を提供できる体制を構築するとともに、生活支援コーディネーターと高齢者支援協議体の設置によって、ニーズとサービスのマッチングを図ります。

また、高齢者が生きがいを持ちながら積極的な地域活動を実践できるよう、生涯学習活動を充実させ、豊かな知識や経験・技術を活かしながら地域を支える担い手として活躍する場所・機会の提供に努めます。



スポーツ大会や介護予防教室の開催によって豊かで自立した生活の実現を支援します。

健康づくり・医療体制の充実

町 民が健康的な生活を送れるよう健康づくり推進協議会の機能を強化し、健康増進計画の策定や食育推進計画の進行管理に努めます。また、地域ぐるみで町民が主体的に健康づくりに取り組めるよう自主運動グループの活動を支援。同時に上三川いきいきプラザを健康づくりの拠点施設と位置づけサービスの向上と健康寿命の延伸や地域の活性化に向けた事業の促進を図ります。

保健サービスの充実には5つの柱を中心に進めていきます。妊娠期における栄養指導をはじめ育児不安を抱える保護者を心身両面で支援する母子保健事業、生活習慣病の防止や重篤な疾病の早期発見・早期治療を推進する成人保健事業、そして、精神保健対策、感染症対策、歯科保健事業です。あわせて

かかりつけ医の普及・定着に努め、救急医療体制もさらに充実させていきます。



「かみたん体操」は町民の健康づくりのため町の特長を取り入れた体操です。

③「産業・しごと・活力」のまちづくり

首都圏に近い地理的優位性や風土を活かした農産物の供給体制をつくることともに、地域に密着した商店街の振興によって活力あるまちづくりを推進します。新たな産業・流通機能の導入で雇用確保につながる産業機能の強化も図ります。

農業の振興

農

畜産価格の低迷や担い手不足など深刻化する近年の農業事情を打開するために、上三川町では、まず、農業生産基盤の強化に取り組みます。効率的かつ安定的な農業経営が可能となるよう意欲と能力のある担い手を育成するとともに、集落営農の組織化・法人化を進めます。

あわせて産地の形成と新たな販路づくりも今後力を入れていくべき分野と考えます。農業経営規模の拡大や新規就農者の参入を支援し、主食用米や新規需要米、二条大麦の作付けなど、地域の特性を活かした効率的な土地利用型農業の展開を目指すとともに、町の振興作物の作付けを推進することで国内外の競争に負けない野菜等産地の確立、安心・安全で高品質な農畜産物を供給できる生産体制の

確立に力を注ぎます。また、上三川町の特産品であるかんびょうなど付加価値を有する農畜産物等のブランド化を推進するとともに、学校給食など地産地消を含む新たな戦略による販路拡大を図ることのできる産業化を促進していきます。



贈答用のイチゴとして首都圏でも人気を博す上三川町のスカイベリー。



上三川町の特産品であるかんびょうは健康食品としても見直されています。



商業の振興

郊

外型大型店への購買力の流出と後継者不足・空き店舗の問題を抱える既存商店街。今後は商業環境の維持に向けて事業者に対する経営体質強化のための支援や既存商店街の再生に向けた取り組み、立地条件を踏まえた商業振興策について検討を進めます。中でも、最も望まれているのは「魅力ある商店街の形成」です。商業経営の近代化や魅力ある店舗づくりを促すため、各種制度資金の活用促進や研修の実施を図り事業者に対する指導・支援体制の強化に努めます。あわせて景観を整備し地域の憩いの場・交流の場としてのあり方も検討します。

また、後継者の育成や新規開業者の発掘、および空き店舗の活用対策の実施にも努めていきます。既存の商業地の発展を図るだけでなく、新4号国道沿線等では立地条件の優位性を活かした商業施設の適正な誘導に努めます。

上三川町 TOPICS

町民の食卓を支える新鮮な農作物の直売所



上三川町には、農業者等のグループが共同で運営している直売所が3か所、他にも個人で運営している直売所が多数あります。ここで紹介しているのは上郷の「おかあさんの店」。店頭には収穫したばかりのおいしそうな野菜が所狭しと並べられています。営業は日曜日以外の毎日、14時～16時30分です。家庭の食卓を支える安全で安心な地元産の野菜。豊かな自然の恵みを感じるお店は町の財産です。



上三川町 TOPICS

東京でも大人気を博した上三川町の特産品

東京都中央区日本橋の新生銀行本店にて、上三川町・新生銀行・栃木銀行共催で開催された「かみたんマルシェ in 新生銀行」。上三川町4Hクラブが町の特産品を販売しました。会場には「かみたん」も駆けつけて上三川町の農産物をPRしました。スカイベリーやトマト・ニラ・グリーンアスパラガスなど農産物はどれも大好評。町では今後も特産品の広報活動に努め、ブランド化を進めていきます。



上三川城址公園通り商店街が開催する「城址ナイト」は多くの出店でにぎわいます。

工業の振興

製 造品出荷額が県内でもトップクラスを占めるなど、工業は上三川町の産業の基盤となってきました。今後もさらなる活性化を図るために新たな企業の誘致や工業用地の整備に向けた取り組みを進めていきます。環境に負荷をかけない付加価値の高い優良企業や研究機関を対象に新たな進出を促進、同時に既存企業の留置活動に努め地域経済の発展と雇用機会の確保を図ります。中小企業に対しては、経営体質強化や事業の継続に向けて健全経営のための各種制度資金の活用を促し、後継者育成のための研修の実施など事業者に対する指導・支援強化に努めます。

あわせて新たな産業の創出や新規開業者の発掘のため産学官が連携して研修機会を提供し技術開発や製品開発を促進。町内で新たに起業を望む人向けに地元金融機関による助成などの支援実施にも努めます。



上三川町の産業を支える工業団地。町にとって重要な雇用の場です。



消費者対策の充実

イ ンターネットによる悪質商法など消費活動におけるトラブルを未然に防止するため、本町では「上三川町消費生活センター」を設置し、県の消費者センターと連携して広報活動・情報提供を行ってきました。今後も消費に関するさまざまなトラブルを未然に防止するため、上三川町消費生活センターや消費者団体と連携して講座の開催、広報紙・リーフレット・ホームページなどを活用した情報の提供に努め、消費者への教育や啓発の推進を図ります。また、上三川町消費生活センターを中心に消費者保護関係機関や警察との連携強化も引き続き促進し、相談事業の充実を図ることで被害の未然防止・被害発生後の適切な対応に努めます。



振り込め詐欺被害を防ぐための講習会など啓発活動を行っています。

基本目標 4 「交通・交流・連携」のまちづくり

機能的な道路網の形成と公共交通機関の充実により、誰もが容易に移動できる環境を整えます。周辺自治体との交流・連携を強化し、暮らしやすさをさらに高めていきます。

道路・交通網の整備

北 関東自動車道や新4号国道といった広域幹線道路網、

また、主要な県道については、必要な整備について国や県に要望していきます。町内道路網の骨格的道路の整備は「総合計画」や「都市計画マスタープラン」に基づいて計画的に行っていきます。また、道路整備に伴い街路樹や植栽を新設する際には、行政と町民の協働による維持・管理を推進することにも、道路愛護活動等への賛同を呼びかけ、「美しくうるおいのある道路空間」をつくります。また、路線バスの維持・確保に努め、デマンド交通（かみたん号）をより使いやすく改善していきます。



道路網の整備を進め、快適で便利な居住空間をつくります。

観光・レクリエーションの振興

か みのかわ町おこし夏祭り」や「夕顔サマーフェスティバル」などの地域イベントは、町内外の多くの人たちが集まり大変な賑わいを見せるなど、成功を収めています。そこで、さらなるにぎわいの創出に向けて町内外イベントの開催を支援するとともに観光・交流イベントの企画・開催を促進します。また、町のマスコットキャラクター「かみたん」を活用し、町内外のさまざまなイベント参加を通じた町のPR活動強化に努めます。上三川町の財産である豊かな自然環境・景観、農業資源、文化財などを活かした観光スポットの創出を図ります。あわせて、町内を訪れた人たちに少しでも長く滞在してもらえよう、周辺市町を巻き込んだ広域的な周遊観光ネットワークの充実も図ります。



「かみのかわ町おこし夏祭り」では大神輿が見ものです。

基本目標

5 「人・文化・スポーツ」のまちづくり

日常的に芸術や文化、スポーツに親しむことができる環境づくりに努めます。地域のさまざまな活動を充実させ、次代につなぐ若い人材の育成を目指します。

芸術・文化の振興

町 民の活発な芸術・文化活動を促すため文化協会や加入団体への支援を図るとともに、学校教育においても文化活動など社会貢献を促す環境づくりに努めます。あわせて日頃の芸術・文化活動の発表の場となる上三川町文化祭を継続して実施し、多くの町民が芸術・文化と触れ合う体験活動など新たなイベント開催も検討します。また、国指定史跡である上神主・茂原官衙遺跡については宇都宮市との協議をもとに地元ボランティア組織との連携をとりながら展示会や講演会を実施。ホームページやパンフレットを活用した広報活動を図ることで、遺跡の重要性のPRや認知度の向上を図ります。もちろん他の文化遺産についても保護意識の喚起を図りながら、適切な保存に努めていきます。



文化祭は、さまざまな文化・芸術活動の披露の場となっています。

スポーツの振興

町 民の自主的・主体的なスポーツ活動を活性化させるために、各種スポーツ団体や、総合型地域スポーツクラブ「かみスポクラブ」を対象に、指導者の確保・育成や各競技の専門部の組織化に向けた支援に努めます。あわせて町民のスポーツ・レクリエーション活動の日常化に向け、各種スポーツ大会の定期的な開催やニュースポーツ教室の充実を力を注ぎ、スポーツ活動自体の普及を促します。広域のスポーツイベントとして「NISSANしらさぎマラソン大会in上三川」・「NISSANしらさぎ駅伝競走大会in上三川」の継続的な開催を行うとともに、体育施設など「スポーツを行う環境」も計画的に更新していきます。



「NISSANしらさぎ駅伝競走大会in上三川」は毎年2月に行われ、平成28年で17回を数えました。

基本目標
6

「自然・環境」のまちづくり

本町の財産である鬼怒川・磯川緑地等の自然資源やのどかな田園環境を活かすとともに自然エネルギーにも配慮した環境にやさしいまちづくりを目指します。

環境衛生の充実

目 常生活に必要な、ごみ・処理場の充実と、墓地・斎場を確保することにより、暮らしやすいまちづくりを目指します。限りある資源の有効利用を促進するため、資源再利用運動や3R運動の推進を図ります。ごみを処分するための焼却施設や新最終処分場の整備を宇都宮市と、し尿の処理施設の適正管理および適正な処理を小山広域保健衛生組合と、また、老朽化した斎場については芳賀地区広域行政事務組合と、それぞれの広域的連携のもと施設の整備を進めます。墓地については需要や多様化するニーズを把握しながら霊園の整備を進めます。



リサイクルを促進するため、使用済み小型家電回収ボックスを設置しています。

基本目標
7

「コミュニティ・地域力」のまちづくり

子育てや介護など地域の抱える課題を自主的に解決できるよう積極的な福祉・コミュニティ活動や自主防災活動など地域の力を高める環境づくりを目指します。

コミュニティ活動の推進

高 年齢の見守りや子育て、青少年の健全育成、防犯・防災対策など、行政のみで解決することが難しい問題に対してはコミュニティ活動の活性化を重視しています。活動を自主的に運営するリーダーとなる人材の発掘・育成に取り組み、全小学校区単位のコミュニティ組織設立を図ります。また、地域住民同士の連帯やコミュニティ維持に欠かせない自治会活動の活性化を図るため支援のみならず未加入者や転入者の加入を促します。そして、新たな時代にふさわしい地域に根ざしたコミュニティづくりに向けた施策を検討します。



さまざまなコミュニティ団体が活発に活動しています。

基本目標
8

「協働・健全財政」のまちづくり

情報の共有化や適切な支援等により町民との協働体制を構築し健全な財政の維持に向けた組織・施設の再編、事務事業の見直しによって持続可能な行政サービスの推進を目指します。

協働・健全財政の町をつくる

協 働・健全財政の町をつくるために求められるのは「町民と行政との協働体制の確立」「情報ネットワークの推進」「自立した自治体経営の確立」の3点です。そのために、さらなる行政情報の公開・提供によって行政と町民・地域の情報の共有化を進めていきます。さらに民間の経営手法を活用した効率的で柔軟な自治体経営に努め行政改革を図っていきます。

議会・行政

町民のみなさまの声を反映させながら、
町の未来を決定します。



平成28(2016)年1月22日「平成28年第1回上三川町議会臨時会」時に撮影

先人たちの努力により早くから工業化が進められ、高度成長の波に乗り順調に発展してきた本町も、人口減少の社会の到来や少子高齢社会の進展など、社会情勢の急激な変化により、大きく様変わりしようとしています。

本町では、「上三川町第7次総合計画」を策定し、「共に創る 次代に輝く 安心・活力のまち 上三川」を将来像とした、まちづくりを進めます。



副町長 町長 教育長



上三川町議会は、4年ごとの直接選挙で選ばれた16人の議員で構成されています。議員は、町民の代表者として、町の意思を決定する重要な職責を持っています。年4回開かれる「定例会」と必要に応じて開かれる「臨時会」があり、町の予算や条例、請願などを審議します。

議会はどなたでも傍聴することができますので、ぜひお越しください。



副議長 田村 稔 議長 津野田 重一

Kaminokawa Map

上三川町マップ



町を空から眺めてみたらどんな景色が見えるでしょう。
町の7つの小学校区ごとに、元気な子どもたちの声を交えながら、
オススメスポットを紹介します。

上三川・流景 彩りあふれる 地域の流れ

第6章

本郷小学校区



本郷北小学校区



上三川小学校区



坂上小学校区



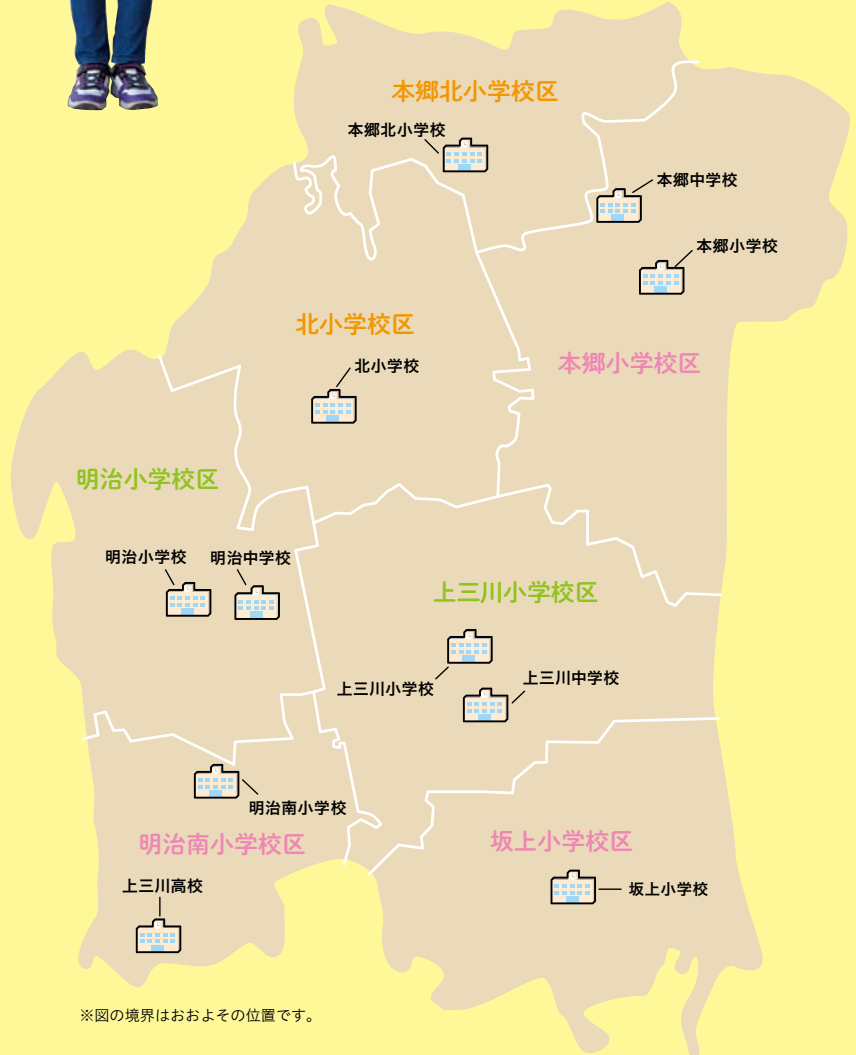
北小学校区



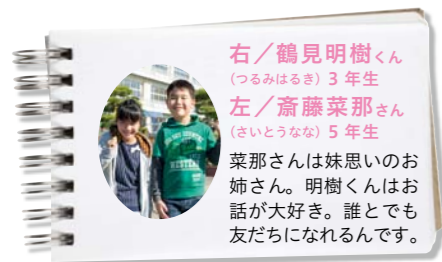
明治小学校区



明治南小学校区



※図の境界はおおよその位置です。



右/鶴見明樹くん
(つるみはるき) 3年生
左/斎藤菜那さん
(さいとうなな) 5年生
菜那さんは妹思いのお姉さん。明樹くんはお話が好き。誰とでも友だちになれるんです。

鼠観音



田んぼの真ん中にある小さな観音様で、この地区の民話として「馬になろうと出来なかったネズミの伝説」が残されています。現在もお堂の周りには多くの石仏が残されています。

愛宕神社



相撲大会は、
たくさんの子どもたちで
にぎわいます。

愛宕神社の境内では、200年もの歴史をもつ奉納相撲が開催されます。現在は、子ども相撲が毎年8月に行われ、たくさんの親子でにぎわいをみせています。

満願寺



境内にある樹齢推定500年の「満願寺のカヤ」は、町指定天然記念物で、とちぎの名木百選となっています。さらに、推定250年の立派なイチヨウの木があり、秋には美しい黄色に染まります。

上三川ホースパーク



多くの馬を育てる、屋内外の馬場を備えたホースパーク。少年の健全育成を掲げ、不登校生のための自立寮「なみあし学園」も主催しています。もちろん乗馬を楽しむこともできます。

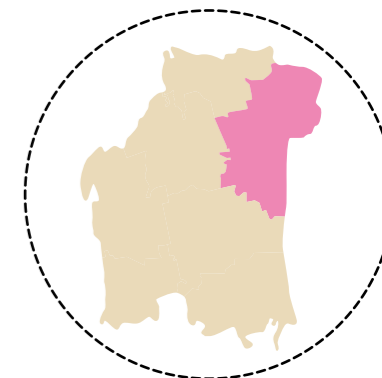
磯川緑地公園



磯川沿いに、小さな子ども連れの家族でも楽しめる、片道約1.4kmの遊歩道があります。たくさんの動植物が生息し、豊かな自然の四季折々の移ろいを鑑賞することができます。

本郷小学校区

町の北東部に位置する本郷小学校区には、鬼怒川沿いにゆったりと田畑が広がります。また、豊かな水辺空間を活かした「蓼沼親水公園」や「蓼沼緑地公園」、「桃畑緑地公園」などがあり、町民のリフレッシュの場となっています。民話が語り継がれる「鼠観音」や奉納相撲で有名な「愛宕神社」などは、上三川の地の歴史と伝統を感じさせてくれるスポットです。



乗馬を楽しむ
ことができますよ。

本郷北小学校区



町の北部に位置する本郷北小学校区は、工場地帯やインターチェンジにも近く、主要な道路が縦横に走り、大規模な住宅地も広がっています。一方で、防災調整池を公園として整備した「篠郷池公園」や、広い広場や遊歩道を持つ「ゆうがお公園」など、町民の憩いの場にも恵まれています。大型店が集まるエリアへも近く、利便性の高い地区といえるでしょう。

ゆうがお公園



広く開放的な公園で、のんびりと過ごすことができます。隣にはスーパーマーケットがあり買い物ついでに立ち寄ることも。

篠郷池公園



江川の下流の洪水を防止するために、雨水を一時的に貯める調整池です。雨が降っていない時は、親水スペースとして散歩などを楽しめるよう、木橋や遊歩道が整備されています。

お祭りは、いろんな人と交流できるのが楽しい。



琴平神社



琴平神社では、小中学生・大人たちが集まる夏祭りが行われ、地域をみこしが巡ります。また、樹齢約100年のサルスベリの大木があり、毎年夏にピンク色の大きな美しい花を咲かせます。

私の祖父母もこの地域に住んでいます。

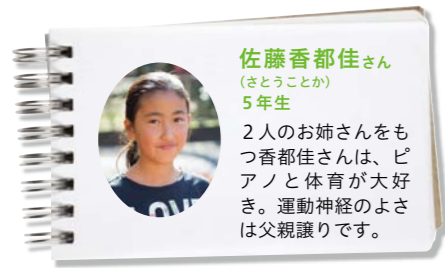
遊びも勉強も大好きです！



稲瀬真奈さん
(いなせまな)
6年生

陸上とバイオリンを続ける文武両道の女の子。最近夢中になっているのは歴史の本です。





しらさぎ公園



白鷺神社の北側にあり、町内を一望できる丘のある公園。池には木橋、棧橋などがあり、散策や水遊びを楽しめます。

たくさんの人でにぎわうイベントは大好きです。

からくり時計



大通り公園にある、子どもたちの夢がふくらむ町になってほしいという願いが込められたモニュメント。3本の柱は鬼怒川・江川・田川の3つの川を表し、時計はゆうがのおの美（ふくべ）をモチーフにしています。

上三川城址公園



石垣が美しく、遊歩道も整備されています。花の名所でもあり桜やツツジなど季節の花々も楽しめます。秋には、かみのかわふる里まつりのイベント会場になります。

上三川通り（中央通り）



電柱を地中に埋めた美しい景観の中央通りでは、夏祭りや新年の初市など、さまざまなイベントが行われます。通り沿いには、商店が軒を連ねにぎわいをみせています。

中央通りからみる夏の花火は最高にきれい！

愛宕山公園



上三川小学校から南に位置する、住宅地にある公園です。公園内にあるコブシの巨木は、「愛宕町のコブシ」として町の名木古木に認定されています。また、隣接する愛宕神社の境内には、町指定文化財の「愛宕塚古墳石室」があります。

上三川小学校区

上三川小学校区は町のほぼ中央に位置し、役場や図書館など主要施設が集まっています。中央は市街地と、さまざまなイベントの開催地となる中央通り、白鷺神社、上三川城址公園が集まり、各行事ごとににぎわいをみせています。工業団地への誘致が始まって以来、雇用の増大により住宅街や商店街が次々と造成され活気を増してきました。



坂上古墳群



坂上台地には42基以上を数える古墳群があります。古墳時代中期(5～6世紀初頭)の帆立貝式古墳とみられる2基を除き、そのほとんどが古墳時代後期(6世紀以降)のもものと推定されます。

学校のグラウンドで練習試合などを行っています。



野外石仏地蔵



普門寺の東にあった三体地蔵のひとつが明治時代の廃仏毀釈による破壊を避けるため、この場所に移されたといわれる地蔵。彫刻技術に優れた姿の良い町内最大の石仏です。

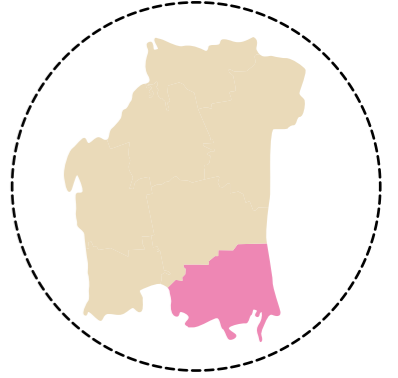
なかよしの森



坂上小学校の敷地内につくられた自然豊かな森が「なかよしの森」です。昆虫採集や木々の成長を観察したり、子どもたちが自然とふれあいながら学べる憩いの場です。

坂上小学校区

町の南部に位置する坂上小学校区は、鬼怒川と田川に挟まれた田園地帯にあります。緑豊かな自然環境の中、「野外石仏地蔵」や「坂上古墳群」など、いにしへの時を感じさせる遺跡や文化財、美術作品を展示する「川島美術館」などもあり自然と文化に恵まれた地区です。



川島美術館



川島金治氏がコレクションした絵画を中心に展示している小さな美術館。ミュージアムショップコーナーもあります。

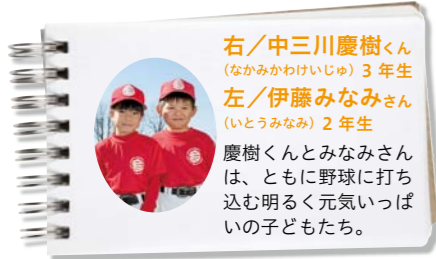
子どもから大人まで楽しめます。



上野陸弥くん
(うえのむつや)
5年生

元気に野外で遊ぶことが大好きな野球少年の陸弥くん。試合での守備位置はファースト。

今日も野球の練習をしたよ。



石田コミュニティセンター



石田コミュニティセンターは、明治小学校北分校の跡地に建てられ、地域住民の方々が活動を行う場として親しまれています。

石田公園



田川に隣接し、運動場や多目的広場を兼ね備えた緑豊かな公園です。春には、田川サイクリングロード沿いに植えられた桜が咲き誇ります。

感應寺



室町時代に建立されたとされる感應寺。広々とした庭が美しく、凛とした雰囲気漂います。

野球も好きだけど公園で遊ぶのも楽しい!



上蒲生東公園



近隣の宅地開発によってつくられた、小さな公園です。遊具や砂場がそろい、親子で気軽に立ち寄れる公園として親しまれています。

上三川北地域福祉センター



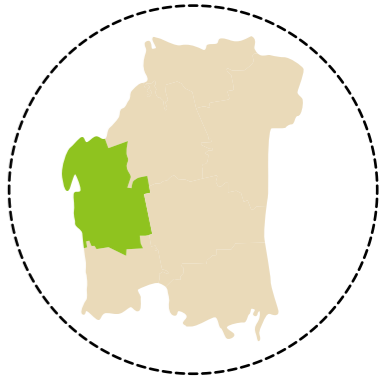
児童館機能のほか、地域の人たちが気軽に交流できる場として、子どもから高齢者まで、すべての方が利用できる施設です。

北小学校区

北小学校区は、町の北西部に位置し、田園地帯と住宅地が共存する地区です。地区内に位置する施設としては、「上三川北地域福祉センター」「石田公園」「上蒲生東公園」「石田コミュニティセンター」などがあり、町民に活用されています。新4号国道や上三川街道も通っているため、交通の便がよいエリアです。



明治小学校区



町の西端にある明治小学校地区は、石橋駅からもほど近く、田畑の中に住宅地が点在するのどかな地区です。「もぐら公園」や「やぐら公園」など、子どもたちが思い切り遊べる施設とともに、豊かな水と生態系に世代を超えて親しめる「水環境神主公園」もこの地区に位置します。田畑だけではなく森も多く見られ、遊び場や自然に恵まれた地区となっています。

もぐら公園



閑静な住宅街の中につくられた公園。敷地内の山には大きなトンネルが作られています。これが「もぐら公園」の名前の由来となっています。

やぐら公園



もぐら公園のほど近くにある、こちらは敷地中央に大きな「やぐら」がつけられた公園。そのため、名前も「やぐら公園」と呼ばれています。

ゆうき公園



ゆうきが丘団地の一角にあるゆうき公園の特徴は軟式野球場やサッカーゴールを備えたスポーツを楽しめる環境です。またゲートボールなどにも利用できる多目的広場もあります。



みんなでスポーツすることが大好きです。

美しい景色がお気に入り！

水環境神主公園



「わんぱくゾーン」「ふれあいゾーン」「いきものゾーン」の3つに分けられた自然や水とふれあえる公園。自然の生態系を重視して整備され、植物・鳥類・魚類などが、共存しています。

美しい自然

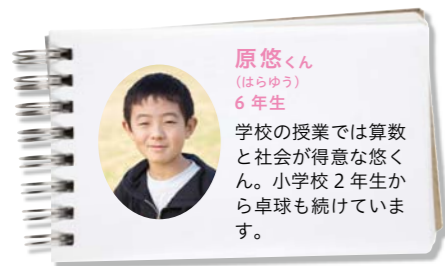


田んぼや畑、森が特に多いこの地域は、季節を通して豊かな自然を感じることができます。

夕顔の花がたくさん咲きます

右／宮田有彩さん (みやたありさ) 6年生
左／宮田薫乃さん (みやたゆきの) 4年生
ピアノが大好きな有彩さんとバレエやパドミントンに打ち込む薫乃さんは仲よし姉妹。





原悠くん
(はらゆう)
6年生
学校の授業では算数と社会が得意な悠くん。小学校2年生から卓球も続けています。

多功コミュニティ運動広場



明治南コミュニティセンターに併設された、野球グラウンドを備える運動場。週末には少年野球の試合会場になるなど、地域のスポーツ振興の中心となっています。



広い運動場では、野球の試合がよく行われています。

みんなでバーベキューするのはとっても楽しい！



明治南小学校区

田川ふれあい公園



親子三代で楽しめる「パークゴルフ」の本格的な2コースや、バーベキュー施設などがそろっています。のどかな風景に囲まれ、スポーツや余暇を楽しむ人々にぎわいます。

多功南原公園



並べた巨石が目印の多功南原公園は広々とした芝生広場を備え子どもたちの遊び場としても大人気。春になれば桜並木に美しい花が咲き誇ります。



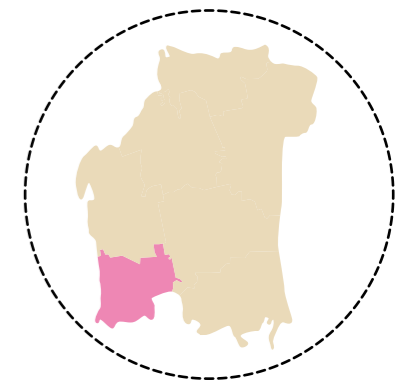
春の桜はとってもキレイです。

明治南コミュニティセンター



お年寄りや子育て世代の憩いの場で、地域の人々が自由に交流できます。

明治南小学校区は、町南西部に位置し、石橋駅からも近距離にあります。大名が日光参拜で通行した関宿多功道が走り、その昔は宿場町としてにぎわっていました。水に恵まれているため水田が多く、また、畑ではニラやかんぴょうなど町の特産品の栽培も盛んです。多功コミュニティ運動広場は、地域のスポーツ振興の中心のな場として、親しまれています。



町の象徴

Symbol of Kaminokawa

上三川町民憲章

わたくしたちは、上三川町民であることに誇りをもち、さらに、一層の発展をめざし、明るく住みよい郷土を築くため、この憲章を定めます。

- 一、心身をきたえ、教養を深め、文化の高い町をつくりましょう
- 一、郷土を愛し、環境をととのえ、住みよい町をつくりましょう
- 一、互いに励まし、心をふれあい、明るい町をつくりましょう
- 一、勤労をとうとび、産業をさかんにし、豊かな町をつくりましょう
- 一、さまりを守り、よい家庭を築き、平和な町をつくりましょう



町章

「上三川」を1字に抽象化し、円満のうちに躍動感を表現したもので合併3町村がひとつになり飛躍伸展しようとしているものです。

上三川町民の歌

昭和五十三年三月制定
作詞 泉 漾太郎
作曲 中田 喜直

- 一、伝統歴史の誇りを継ぎ、しげれる銀杏に 郷土の息吹き
おおいなるかな 上三川
夢は男体山 豊かな理想
語りつづけよ 伸びゆく町よ
- 二、生産宝庫の誇りを奏で、ほほえむ夕顔 郷土の賛歌
うるわしきかな 上三川
鬼怒川は水明 豊かな大地
抱きつづけよ 伸びゆく町よ
- 三、商工文化の誇りを胸に、はばたく白鷺 郷土の翼
たくまשיきかな 上三川
かける緑野 豊かな未来
励みつづけよ 伸びゆく町よ

上三川音頭

昭和五十年五月発表
作詞 広瀬 鋭男
作曲 浜尾 晃暁

- 一、ハアー 遙かナ
遙か西空 男体山がヨ
今日も見守る わしらが町は
人情溢れて ホンニソレソレホンニソレソレ
ホンニ栄える 上三川
- 二、ハアー 町はナ
町は自慢の カンピョウ産地ヨ
広い田園 工業都市の
緑豊かな ホンニソレソレホンニソレソレ
ホンニ栄える 上三川
- 三、ハアー 昔ナ
昔ながらの かずある名所ヨ
空の雲さえ 見とれて浮かぶ
ゆめもなつかし ホンニソレソレホンニソレソレ
ホンニ栄える 上三川
- 四、ハアー 鬼怒のナ
鬼怒の流れが 変わらぬようにヨ
永久に伸びゆく わたしらが町は
老いも若きも ホンニソレソレホンニソレソレ
ホンニ栄える 上三川
- 五、ハアー 月はナ
月はまんまる 踊りもまるくヨ
やぐら太鼓に 心も躍る
手拍子そろえて ホンニソレソレホンニソレソレ
ホンニ栄える 上三川



町の木
いちょう

中国原産のイチョウ科落葉高木で雌雄異株。葉が秋に黄色く黄葉すると同時に実を熟します。その実はギンナンとして食用に用いられます。



町の花
ゆうがお

ウリ科のつる性一年草。夕顔という名のおり夏の夕方に花を咲かせ、果実はかんぴょうの原料になります。



町の鳥
しらさぎ

コウノトリ目サギ科の鳥のうち全身白色のものを総称。細長い首・くちばし・脚をもち、水辺の生き物をえさとしています。



マスコットキャラクター
かみたん

町のPRキャラクターとして、平成24(2013)年に誕生。町の鳥「しらさぎ」をモチーフにした帽子、体には町を流れる川と町の花である「ゆうがお」、特産品の「かんぴょう」が描かれてい



友好都市
茨城県大洗町

平成26(2015)年2月13日に、本町と茨城県大洗町が友好都市協定を締結しました。茨城県でも有数の観光地・大洗町とは、北関東自動車道の整備をきっかけに交流を続けてきました。調印式では、星野町長と大洗町の小谷町長が友好都市協定書に調印したほか、災害対策支援協力に関する覚書も取り交わしました。